
2022年度 授業概要【生活科学研究科】

科目コード：72001

科目ナンバリング：GF51A01K

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：食物科学特論I(Advanced food scienceI)

担当者：熊田 薫

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：火曜6限

履修可能学科・専攻：GF

関連資格：教職

AL要素：課題解決
発表
討論

授業の概要： (特例期間中の授業形態)課題研究型

- 1.食と微生物の関わりを理解し、自らの見解を持つ。
- 2.日本における食中毒発生動向を理解し説明できる。
- 3.主な食中毒病因物質について理解し、説明できる
- 4.発酵食品、特に納豆菌をその発酵産物について説明できる
遠隔授業になった場合は、オンライン、オンデマンド授業をおこなう。

キーワード： 微生物、食中毒原因微生物、発酵食品、納豆菌

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 食と微生物の関わり、日本における食中毒発生動向を理解する
主な食中毒病因物質について理解する。
発酵食品、特に納豆菌とその発酵産物について理解する。

評価方法： レポート

評価割合： 50%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 基本知識を獲、自身の意見を持ち、説得力のある表現ができる。

評価方法： 授業中の発言およびプレゼンテーション

評価割合： 50%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

理解したことに対する意見の表明、プレゼンテーションなどによる

評価割合： 0%(上記の評価に含まれる)

▼ 実践的ボランティア

特になし

評価割合： 0%

▼ 公正性

科学的に正当な判断ができる。無理のある解釈をしない。

評価割合： 0%

▼ その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画： 方法：

- 1.基本的な内容を講義するが、その中で課題や問題点を提示する。これに対し、受講者には自らの考え、および何をどう調べたら解決できるかを考えて発言することが要求される。次回までに調べる必要が生じることもあるので、積極的な参加が期待される。
- 2.新しい知見や動向にも注意を払う必要がある。文献を調べ、発表することも求められる。

授業計画

- 1.食中毒統計と微生物性食中毒
- 2.細菌性食中毒Ⅰ:病原性大腸菌、サルモネラ菌およびカンピロバクターによる食中毒および感染症
- 3.細菌性食中毒Ⅱ:黄色ブドウ球菌、腸炎ビブリオ、ウエルシュ菌、セレウス菌その他による食中毒
- 4.ウイルス性食中毒
- 5.自然毒による食中毒
- 6.細菌による食品汚染および食品の変質
- 7.真菌およびカビ毒による食品汚染
- 8.HACCP
- 9.微生物による食品汚染、食中毒をめぐる争訟
- 10.発酵食品概論
- 11.納豆菌(bacillus subtilis natto)概論
- 12.食品としての納豆
- 13.酒類の製造に関する微生物、酒類および製造、歴史
- 14.乳酸菌が関与する発酵食品(チーズ、ヨーグルトその他)
- 15.総合討論

使用テキスト: 特になし

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 1.基本的な内容を講義するが、その中で課題や問題点を提示する。これに対し、受講者には自らの考え、および何をどう調べたら解決できるかを考えて発言することが要求される。次回までに調べる必要が生じることもあるので、積極的な参加が期待される。
2.新しい知見や動向にも注意を払う必要がある。文献を調べ、発表することも求められる。

障がいのある履修者への対応: できる限り対応する。事前に相談を。

授業時間外の連絡手段: 受講生には、連絡先のアドレスなどを公表する。

留意事項: 当該分野についての興味・関心が重要である。

科目コード: 72002 科目ナンバリング: GF52A01K 主な使用言語: 日本語

授業名(英文): 食物科学特論II(Advanced food scienceII)

担当者: 飯島 健志

基本情報

年次: 1 単位数: 2 授業形式: 講義

曜時: 月曜7限 履修可能学科・専攻: GF

関連資格: 教職 AL要素: 17. 発問と回答

授業の概要: ヒトが摂取する食物に含有される食品成分の特性について、最新の研究成果を紹介する。食品成分の特性として、栄養特性、嗜好特性、生理特性が挙げられるが、本授業では、微量成分であるビタミン、ミネラルおよび嗜好成分とその生体調節機能などについて解説する。

キーワード: ビタミン、ミネラル、色素成分、呈味成分、香気成分

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 授業で解説を受けた食品中のビタミン、ミネラル、色素成分、呈味成分、香気成分について理

解し、要点をおさえた適切な内容で作成することができる。

評価方法: レポート

評価割合: 60%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法: レポート

評価割合: 40%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価の対象とはしません。ただし、自主的な学修によって授業内容の発展的事項の成果等が、発表内容に認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中に著しく公平性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となりますので注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画:

- 【第01回】ガイダンス
- 【第02回】食品の機能性について
- 【第03回】食品中のビタミン、ミネラル、嗜好成分、フィトケミカル
- 【第04回】ビタミンについて
- 【第05回】水溶性ビタミンの生理機能
- 【第06回】脂溶性ビタミンの生理機能
- 【第07回】ミネラルについて
- 【第08回】ミネラルの生理機能
- 【第09回】色素成分の機能性
- 【第10回】呈味成分の機能性
- 【第11回】香り成分の機能性
- 【第12回】フィトケミカルの機能性
- 【第13回】特定保健用食品と機能性成分
- 【第14回】機能性表示食品と機能性成分
- 【第15回】まとめ

使用テキスト: 時間ごとに、プリントを配付します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 授業前は、事前に配付された資料内容を理解しておくこと(60分)。
授業後は、授業内容について復習し、レポート執筆の準備をする(90分)。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: 担当教員がオフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等についてはIC-UNIPAでお知らせします。

留意事項: 食物科学分野を専攻する学生は必修。栄養教諭専修免許必修。
レポート課題については、IC-UNIPAやTeamsの課題機能を利用して提出物を確認後にコメントを付与

します。

科目コード：72003 科目ナンバリング：GF53A01K 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：食物科学特論III(Advanced food scienceIII)

担当者：君羅 好史

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：土曜5限

履修可能学科・専攻：

関連資格：

AL要素：05. 即時応答

11. 討論

17. 発問と回答

授業の概要： 食品、栄養素および食品中の非栄養素の機能あるいはヒトの健康に及ぼす有効性と有害作用(食毒性)について解析し、個人の身体状況や遺伝要因を考慮した食事設計を可能にして、健康に役立てることを目的とする。このため、食品機能の解析法、栄養状態や栄養素の遺伝子発現に及ぼす作用機序について説明できるようになることを目標とする。

キーワード： 食品の機能、機能性成分、生活習慣病、機能性食品、機能性ペプチド、抗酸化性、血糖値、糖尿病、脂質代謝、プロバイオティクス、プレバイオティクス

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 食品機能の解析法、栄養状態や栄養素の遺伝子発現に及ぼす作用機序について説明できるようになる。

評価方法： 授業終了後の小テスト

評価割合： 70%

および

授業中の質問に対する回答

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で扱った内容について、これまでの経験や自主学修によって得た知見を踏まえて考察し、理論的かつ簡潔に自らの考えを表現することができる。

評価方法： レポート

評価割合： 30%

および

授業中の質問に対する回答

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等がテストやレポート等の内容に認められる場合には、上記の項目【思考力・判断力・表現力】への加点の対象とする場合がある。

評価割合： 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により自身の知見に追加された成果等がテストやレポート等の内容に認められる場合には、上記の項目【思考力・判断力・表現力】への加点の対象とする場合がある。

評価割合： 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中に差別発言など公平性を欠いた言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合： 0%

▼ その他

特になし。

評価割合：特になし。

- 授業計画：
- 1 食品の機能性について説明できる。
 - 2 機能性食品とは何かについて説明できる。
 - 3 食品機能の評価法について説明できる。
 - 4 動物を用いた食品機能評価について説明できる。(1)
 - 5 動物を用いた食品機能評価について説明できる。(2)
 - 6 栄養機能解析におけるバイオテクノロジーについて説明できる。(1)
 - 7 栄養機能解析におけるバイオテクノロジーについて説明できる。(2)
 - 8 栄養機能解析におけるバイオテクノロジーについて説明できる。(3)
 - 9 栄養機能と遺伝要因について説明できる。
 - 10 栄養素による遺伝子発現調節機構について説明できる。
 - 11 栄養状態による遺伝子発現調節の分子機構について説明できる。(1)
 - 12 栄養状態による遺伝子発現調節の分子機構について説明できる。(2)
 - 13 ヒト試験による食品機能評価(1)について説明できる。
 - 14 ヒト試験による食品機能評価(2)について説明できる。
 - 15 教育現場における応用について説明できる。

使用テキスト： 授業で使用する資料は全て印刷・配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： ・授業後、配布資料について復習するとともに、資料に含まれない関連項目について自主学修を通じ知見を深めることが望ましい。(90分)
・参考資料(文献等)については、授業中に言及する。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応する。まず学務部へ連絡を。

授業時間外の連絡手段： この授業についての連絡は、e-mailにて受け付ける。

留意事項： 特になし。

科目コード：72004 科目ナンバリング：GF50B01E 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：食物科学演習(Seminar on food science)

担当者：飯島 健志、坂倉 有紀、熊田 薫

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：演習

曜時：火曜7限

履修可能学科・専攻：GF

関連資格：教職

AL要素：07. 発表

17. 発問と回答

授業の概要： 食物に含まれ、人体にさまざまな影響をもたらす各種成分の機能性評価や分析結果、分析法を扱った国内外の最新の英語の研究論文や文献を読解し、英文雑誌の読解力を養い、学問的な理解を深める。修士論文作成の基礎を形作る。演習は、パワーポイント等を使いプレゼン形式で進める。質疑応答により、理解度を深める。

オムニバス方式／全15回

(飯島健志／5回)

食品中のビタミンの栄養機能評価や分析結果、分析法を扱った最新の英語の研究論文や文献を読解させる。

(坂倉有紀／5回)

食品由来の機能性成分や嗜好成分、生体成分に関する学術論文を読解し理解する。また、論文から得た知識・情報を整理し、プレゼンテーションとして発表する。

(熊田薫/5回)

食品と微生物の関わりを考える。食中毒等、食品に有害な作用を及ぼす各種の微生物について最新の知見を文献を通して学ぶ。逆に発酵食品等有益な微生物について最新の知見を文献を通して学ぶ。日本の訴訟における判決文以外は主として英文の文献を読解することになる。

キーワード： 水溶性ビタミン、脂溶性ビタミン、機能性成分、嗜好成分、発酵と腐敗、微生物性食中毒

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業を通じて文献検索の手法、文献を正しく理解する能力、プレゼンテーションする能力を身につけることができる。

評価方法： プレゼンテーションの内容 **評価割合：** 70%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法： プレゼンテーションの内容 **評価割合：** 30%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価の対象とはしません。ただし、自主的な学修によって授業内容の発展的事項の成果等が、発表内容に認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中に著しく公平性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となりますので注意すること。

評価割合： 0%

▼その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画： 【第01回】食品中の水溶性ビタミンの分析法に関する学術論文の読解(飯島)
【第02回】食品中の脂溶性ビタミンの分析法に関する学術論文の読解(飯島)
【第03回】水溶性ビタミンと栄養に関する学術論文の読解(飯島)
【第04回】脂溶性ビタミンと栄養に関する学術論文の読解(飯島)
【第05回】ビタミンの生理機能に関する学術論文のプレゼンテーションを行う(飯島)
【第06回】食品由来の機能性成分に関する学術論文の読解(坂倉)
【第07回】食品由来の機能性成分に関する学術論文のプレゼンテーション(坂倉)
【第08回】食品の嗜好成分に関する学術論文のプレゼンテーション(坂倉)
【第09回】代謝改善に寄与する成分に関する学術論文の読解(坂倉)
【第10回】代謝改善に寄与する成分に関する学術論文のプレゼンテーション・まとめ(坂倉)
【第11回】食中毒病因微生物についての最新の動向(熊田)
【第12回】微生物検査技術について、最新の文献を検索しプレゼンテーションを行う(熊

田)

【第13回】食中毒事例と法律上の争訟に関し、判決文等から読み解く(熊田)

【第14回】発酵食品と微生物に関する最新の知見を、文献から学びプレゼンテーションを行う

(熊田)

【第15回】食品における微生物の増殖阻害因子および増殖促進因子について文献を検索しプレ

ゼンテーションを行う(熊田)

使用テキスト: 英語学術論文を配付する。
学生は発表プリントを準備すること。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 授業前に指定された学術論文を読むこと(90分)。
授業後は、授業内容について復習し、プレゼンテーションの準備をする(90分)。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: 各担当教員がオフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時間等についてはIC-UNIPAでお知らせします。

留意事項: 食物科学分野を専攻する学生は必修。家庭科専修免許必修。
レポート課題については、IC-UNIPAやTeamsの課題機能を利用して提出物を確認後にコメントを付与します。

科目コード: 72005 科目ナンバリング: GF50B02J 主な使用言語: 日本語

授業名(英文): 食物科学特別実習(Advanced experiment on food science)

担当者: 飯島 健志、坂倉 有紀、熊田 薫

基本情報

年次: 1

単位数: 1

授業形式: 実習

曜時: 月曜7限

履修可能学科・専攻: GF

関連資格: 教職

AL要素: 03. 実験・実技・体験
17. 発問と回答

授業の概要: 食品や生体に含まれる微量成分の検出・定量法および食中毒細菌の検出について実験手法を体得する。

また、生体のエネルギー代謝を理解するため、呼気ガス検出の分析方法も習得する。

オムニバス方式/全8回2コマ連続授業

(飯島健志/3回)

食品に含まれるミネラルについて、試料調製法や機器分析法(原子吸光分析、ICP発光分析法)を学び、

実際の分析を通して原理の理解、結果解析について習得する。

(坂倉有紀/3回) 栄養の代謝や動態を理解するため、食品や生体成分にある分子を検出・定量する実験を行う。担当回においては、尿酸や尿素の検出について実習を行う。また、生体のエネルギー代謝のinとoutを理解するため、呼気ガス検出を用いたエネルギー代謝の測定実験も行う。

(熊田薫/2回)食中毒予防のためには、食品に含まれる微生物の検出と定量が必要となる。また、微生物の増殖を阻止し、あるいは殺滅する必要がある。具体的には、食中毒細菌の検出について実習を行い、増殖阻止の条件を実験から検討する

キーワード: ミネラル、原子吸光分析、ICP発光分析、尿酸、尿素、エネルギー代謝、細菌数、細菌の同定

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 食品および生体試料を用いて、ミネラル、尿酸、尿素等の分析方法について体得する。さらに、食中毒細菌の検出について実験を行い、微生物実験の実験手法等を身につけることができる。また、呼気ガス検出を用いたエネルギー代謝の測定方法を習得する。

評価方法: レポート

評価割合: 70%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法: レポート

評価割合: 30%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価の対象とはしません。ただし、自主的な学修によって授業内容の発展的事項の成果等が、発表内容に認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中に著しく公平性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となりますので注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: 【第 1, 2回】 食品中のミネラル分析試料の調製(飯島)
【第 3, 4回】 食品中のミネラルの検出(飯島)
【第 5, 6回】 食品中のミネラルの定量(飯島)
【第 7, 8回】 生体試料を使った尿酸の測定(坂倉)
【第 9,10回】 生体試料を使った尿素・ビタミンの測定(坂倉)
【第11,12回】 Analysis of energy metabolism(坂倉)
【第13,14回】 食品中の一般細菌数の計測および大腸菌群・大腸菌の検出と計測(熊田)
【第15,16回】 食中毒菌の検出と同定(熊田)

使用テキスト: 毎回プリントを配付する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 授業前は、事前に配付された資料内容を理解しておくこと(90分)。
授業後は、授業内容について復習し、レポート執筆の準備をする(90分)。
実験実習に必要な参考書、学術論文は適宜指示する。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: 各担当教員がオフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時間等についてはIC-UNIPAでお知らせします。

留意事項: 食物科学分野を専攻する学生は必修。家庭科専修免許必修。
レポート課題については、IC-UNIPAやTeamsの課題機能を利用して提出物を確認後にコメントを付与します。

科目コード: 72006 **科目ナンバリング:** GF60B01E **主な使用言語:** 日本語
授業名(英文): 食物科学特別研究(22-23用)(Advanced research on food science(22-23))
担当者: 飯島 健志、大貫 和恵

基本情報

年次: 1 **単位数:** 8 **授業形式:** 演習
曜時: 前期(土曜6限)、後期(土曜6限) **履修可能学科・専攻:** GF
関連資格: **AL要素:** 03:実験、実技、体験
07:発表
15:レポート指導
17:発問と回答

授業の概要: 現在、多くの加工品は、差別化を図るために様々な特性を持たせた形で販売され、特に、健康志向に伴い、機能性食品が多く存在する。加工品を作製する際、特性を持たせて製造することが重要課題となることから、その特性等を評価するために様々な側面から分析、解析を行い、総合的な評価が理解できることを目標とする。
また、研究者として、研究課題の採択、研究計画の策定、資料の収集・整理、分析方法・解析、結論に対するの考察等、研究の進め方を修得する。

キーワード: 食品加工、食品分析(脂肪酸、ビタミン、におい)、調理科学(粘度、色等)、食品衛生(酸価、過酸化価等)、官能評価

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 1. 加工品の様々な成分および特性に関する諸問題をテーマに設定し、修士論文としてまとめる。
2. 研究を通し、食に関する課題解決の手法を身につけることができる。

評価方法: 修士論文 **評価割合:** 修士論文:40%発表内容:10%
発表内容

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法: 修士論文 **評価割合:** 修士論文:40%発表内容:10%
発表内容

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象としない。
ただし、自主的な学修によって授業内容の発展的事項の成果等が、論文内容や発表内容に認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象としない。

ただし、授業中に著しく公平性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となりますので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画： 【第01回】ガイダンスとテーマの設定
【第02回】研究論文を使用し、研究テーマの関連事項を検索1
【第03回】研究論文を使用し、研究テーマの関連事項を検索2
【第04回】倫理指針に基づいたデータの取り扱いについて
【第05回】研究計画書の作成
【第06回】研究手法の学習1
【第07回】研究手法の学習2
【第08回】食品の加工処理法の検討
【第09回】食品の加工処理
【第10回】加工品の分析と解析1
【第11回】加工品の分析と解析2
【第12回】加工品の分析と解析3
【第13回】加工品の分析と解析4
【第14回】分析結果のまとめ
【第15回】中間発表
【第16回】分析結果の評価と加工処理法の再検討1
【第17回】分析結果の評価と加工処理法の再検討2
【第18回】分析結果の評価と加工処理法の再検討3
【第19回】食品の加工処理
【第20回】加工品の分析と解析1
【第21回】加工品の分析と解析2
【第22回】加工品の分析と解析3
【第23回】加工品の分析と解析4
【第24回】分析結果の整理
【第25回】分析結果のまとめ
【第26回】修士論文執筆
【第27回】修士論文執筆
【第28回】修士論文執筆
【第29回】修士論文発表会の準備
【第30回】修士論文発表会

使用テキスト： 特になし

予習・復習のポイントと 授業前に指定された学術論文を読むこと(90分)。

参考文献・資料等： 授業後は、授業内容について復習し、自身の考えをまとめること(90分)。
実験実習に必要な参考書、学術論文は適宜指示する。

障がいのある 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： 担当教員がオフィスアワーに研究室で対応します。
曜日・時限等についてはIC-UNIPAでお知らせします。

留意事項： レポート課題については、データの場合、Teamsの課題機能を利用して提出物を確認後にコメントを付与する。紙媒体の場合、レポートに直接コメントを付与する。
質問等については、随時、授業時、IC-UNIPAやTeamsに回答を提示する。

科目コード：72006

科目ナンバリング：GF60B01E

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：食物科学特別研究(22用)(Advanced research on food science(22))

担当者：飯島 健志、大貫 和恵

基本情報

年次：1

単位数：8

授業形式：演習

曜時：前期(土曜6限)、後期(土曜6限)

履修可能学科・専攻：GF

関連資格：

AL要素：03:実験、実技、体験
07:発表
15:レポート指導
17:発問と回答

授業の概要： 現在、多くの加工品は、差別化を図るために様々な特性を持たせた形で販売され、特に、健康志向に伴い、機能性食品が多く存在する。加工品を作製する際、特性を持たせて製造することが重要課題となることから、その特性等を評価するために様々な側面から分析、解析を行い、総合的な評価が理解できることを目標とする。

また、研究者として、研究課題の採択、研究計画の策定、資料の収集・整理、分析方法・解析、結論に対するの考察等、研究の進め方を修得する。

キーワード： 食品加工、食品分析(脂肪酸、ビタミン、におい)、調理科学(粘度、色等)、食品衛生(酸価、過酸化物質等)、官能評価

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 1. 加工品の様々な成分および特性に関する諸問題をテーマに設定し、修士論文としてまとめる。
2. 研究を通し、食に関する課題解決の手法を身につけることができる。

評価方法： 修士論文
発表内容

評価割合： 修士論文：40%発表内容：10%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法： 修士論文
発表内容

評価割合： 修士論文：40%発表内容：10%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象としない。

ただし、自主的な学修によって授業内容の発展的事項の成果等が、論文内容や発表内容に認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象としない。

ただし、授業中に著しく公平性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となりますので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：【第01回】ガイダンスとテーマの設定
【第02回】研究論文を使用し、研究テーマの関連事項を検索1
【第03回】研究論文を使用し、研究テーマの関連事項を検索2
【第04回】倫理指針に基づいたデータの取り扱いについて
【第05回】研究計画書の作成
【第06回】研究手法の学習1
【第07回】研究手法の学習2
【第08回】食品の加工処理法の検討
【第09回】食品の加工処理
【第10回】加工品の分析と解析1
【第11回】加工品の分析と解析2
【第12回】加工品の分析と解析3
【第13回】加工品の分析と解析4
【第14回】分析結果のまとめ
【第15回】中間発表
【第16回】分析結果の評価と加工処理法の再検討1
【第17回】分析結果の評価と加工処理法の再検討2
【第18回】分析結果の評価と加工処理法の再検討3
【第19回】食品の加工処理
【第20回】加工品の分析と解析1
【第21回】加工品の分析と解析2
【第22回】加工品の分析と解析3
【第23回】加工品の分析と解析4
【第24回】分析結果の整理
【第25回】分析結果のまとめ
【第26回】修士論文執筆
【第27回】修士論文執筆
【第28回】修士論文執筆
【第29回】修士論文発表会の準備
【第30回】修士論文発表会

使用テキスト：特になし

予習・復習のポイントと
参考文献・資料等： 授業前に指定された学術論文を読むこと(90分)。
授業後は、授業内容について復習し、自身の考えをまとめること(90分)。
実験実習に必要な参考書、学術論文は適宜指示する。

障がいのある
履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： 担当教員がオフィスアワーに研究室で対応します。
曜日・時限等についてはIC-UNIPAでお知らせします。

留意事項： レポート課題については、データの場合、Teamsの課題機能を利用して提出物を確認後にコメントを付与する。紙媒体の場合、レポートに直接コメントを付与する。
質問等については、随時、授業時、IC-UNIPAやTeamsに回答を提示する。

科目コード：72007

科目ナンバリング：GF51A02K

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：人間栄養学特論I(Advanced human nutritionI)

担当者：梶田 泰孝

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：水曜6限
関連資格：教職

履修可能学科・専攻： GF
AL要素： 14.輪読活動
17.発問と回答

授業の概要：〔第1回から7回〕

大学院研究科の人間栄養学の導入として必要な知識の修得を行う。内容としては、栄養学研究と係る、研究倫理・生命倫理等に関する指針・規程等の理解、動物実験に関する教育訓練などを行う。

〔第8回～15回〕

本講義では、生命の維持や、エネルギーの獲得をはじめとする栄養素の代謝を、マクロおよびミクロの視点から考えられるようになることを目的とする。さらに生体の各器官・組織の役割を総括的に理解することを目的とする。

【授業形態ガイドライン】・レベルⅢ、レベルⅡ 遠隔授業（オンデマンド型）

キーワード：・研究倫理、生命倫理、研究の基本知識、研究不正
・栄養素の代謝、栄養素の相互関係、栄養素摂取と疾病

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標：・研究活動における研究倫理・生命倫理等に関わる基礎的知識の修得
・栄養代謝に関する知識の修得

評価方法：授業内での質疑、課題の提出 **評価割合：**60%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標：・研究者に必要な生命倫理に係る知識の深化
・俯瞰的な視点から栄養学を理解できるスキルの修得

評価方法：課題の提出(テーマに対する考察等) **評価割合：**40%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしないが、授業時に設定された目的に対して、積極的に取り組み、不明な点等は担当教員に質問するなど、知識等を身に付けようとする態度を望む。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 第1回:ガイダンス

第2回:研究倫理に関する指針の理解①(科学者のあるべき姿、公正な研究活動)

第3回:研究倫理に関する指針の理解②(栄養学領域における研究倫理の重要性)

第4回:人を対象とする研究に関する倫理指針の理解①(生命倫理の基礎・倫理審査)

第5回:人を対象とする研究に関する倫理指針の理解②(倫理審査申請に関する講義)

第6回:栄養学領域における動物を用いた研究の意義と考え方①(含む動物倫理)

第7回:栄養学領域における動物を用いた研究の意義と考え方②(人を対象の研究との比

- 較)
- 第8回: 主要栄養素の特徴およびエネルギー代謝
 - 第9回: 栄養素の科学、構造と機能
 - 第10回: 栄養素の消化・吸収機構と代謝
 - 第11回: 水分・電解質バランスと恒常性、浸透圧
 - 第12回: たんぱく質合成と生命活動、セントラルドグマ
 - 第13回: 遺伝子と疾患、臓器と栄養素
 - 第14回: 栄養素の代謝と疾病との関係
 - 第15回: 総括

使用テキスト: ・科学者をめざす君たちへ 米国科学アカデミー 編/池内 了 訳(化学同人)
 ・人を対象とする医学系研究に関する倫理指針(文部科学省・厚生労働省)など
 その他、栄養学関連の学術論文・資料は、授業時に配付します。
 詳細は初回の授業時に連絡します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 事前・事後学習については授業内にて別途指示する。
 事前学習として、授業に向けた提出資料の検索、あらかじめの精読が必要である(20-30分)
 また事後学習は30-60分行い、知識を確固たるものとする。
 (各自のペースで行うこと。)

障がいのある履修者への対応: 授業履修前に学務部に連絡、相談して下さい。授業内では、可能な限り対応します。

授業時間外の連絡手段: 特に時間指定はしません。
 担当教員の時間に余裕があれば、随時対応します。

留意事項: 特になし

科目コード: 72008 科目ナンバリング: GF52A02K 主な使用言語: 日本語

授業名(英文): 人間栄養学特論II(Advanced human nutritionII)

担当者: 桐井 恭子

基本情報

年次: 1	単位数: 2	授業形式: 講義
曜時: 火曜6限		履修可能学科・専攻: GF
関連資格: 教職		AL要素: 10.資料調査課題、 11.討論

授業の概要: 人々の疾病予防および健康増進に関わる研究対象(予防や改善の対象となる疾患・食習慣等)について先行研究を基に深く検討し、信頼のおける栄養疫学研究的解析・評価法等を習得する。

キーワード: 栄養疫学、疾病予防、研究デザイン

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 参考書、資料等を用いて、栄養疫学の基本かつ重要な事項について理解を深める。また、優れた先行疫学研究的論文を基に、研究デザイン、方法、結果の分析・評価法について討議を行いながら習得する。

評価方法: 課題レポートで評価する。 **評価割合:** 40%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 信頼のおける栄養疫学手法を学ぶとともに、研究結果の解析・評価法等を習得する。

評価方法: 課題レポートで評価する。 **評価割合:** 40%

▼学修に主体的に取り組む態度

出席状況、研究に取り組む態度から総合的に評価する。

評価割合：20%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼その他

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：直接的な評価対象とはしない。

授業計画： 講義およびディスカッションにより授業を進める。

1. オリエンテーション
2. 栄養疫学の概要
3. 疫学研究の方法
4. 食事調査の留意点
5. 食事調査、食物頻度調査法の評価
6. 食物頻度調査票の再現性と妥当性
7. 食事を反映する指標
8. エネルギー調整法
9. 栄養疫学研究の実際1
10. 栄養疫学研究の実際2
11. 各自研究テーマに沿った疫学研究についてのディスカッション1
12. 各自研究テーマに沿った疫学研究についてのディスカッション2
13. 発表1
14. 発表2
15. 総括

使用テキスト： 授業時に適宜配布します。

予習・復習のポイントと 適宜参考資料を指示または配布します。
参考文献・資料等：

障がいのある 授業履修前に学務部に連絡、相談して下さい。可能な限り対応を行います。
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。

留意事項： 特になし。

科目コード：72009

科目ナンバリング：GF53A02K

主な使用言語：日本語または英語

授業名(英文)：人間栄養学特論Ⅲ(Advanced human nutritionⅢ)

担当者：鯨井 隆

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：土曜6限

履修可能学科・専攻：GF

関連資格：教職

AL要素：17発問と回答

授業の概要：液性・浸透圧調節や体温・血液・免疫学・内分泌代謝学・神経系調節などの様々な恒常性の仕組みを学習しながら、破綻された病態や疾患について総合的に捉える見方を主眼に置くよう講義内容に盛り込んで行きます。急性疾患・慢性疾患や神経系の疾患などの捉え方に対して栄養と健康科学的な新たな考え方が培われるように配慮・工夫した授業を目指します。

緊急事態宣言下またはその他の事情でOL施行が確定した場合は、授業コード番号をもとに、チームズ画面で受講となる。この場合は、「課題研究型」となる。毎回出席票問題の回答、自主学習及び発展学習的な課題がある。この課題は学期末試験問題の対象ともなるので、しっかり取り組む事を推奨する。

キーワード：現代病、メタボリックシンドローム、認知症、窒素平衡、代謝過程、遺伝子・SNP

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標：到達目標(知識・技能)

現代病の主要各疾患の病態生理学を知り、それに対応する妥当的栄養代謝学の視点から総合医学として理解出来き、実際上の臨床応用問題(症例の問題点把握力)を自らの力で解決できること。

評価方法：学期末試験の100点満点のうち、5割相当 **評価割合：45%**
の配当点(50点)で評価する

▼思考力・判断力・表現力

到達目標：現代病の主要各疾患の病態代謝学を知り、それに対応する妥当的栄養代謝学の視点から総合医学として理解出来き、実際上の臨床応用問題(症例の問題点把握力)の代謝数理計算を自らの力で解決できること。

評価方法：学期末試験の100点満点のうち、5割相当 **評価割合：45%**
の配当点(50点)で評価する

▼学修に主体的に取り組む態度

授業の出席状況や出席票問題正答率、課題提出物の態度から総合的に評価する。

評価割合：10%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

**評価割合：特になし。
**

授業計画： 第1回:オリエンテーション(恒常性維持と病態)
恒常性(ホメオシスターシス)の種類とその背景にある病態機序の概説
第2回:情報伝達様式(液性・免疫・神経)

- 情報伝達様式の種類と各々の特徴様式を具体的に詳述する
- 第3回: 酸塩基平衡と病態生理
Henderson-Hasselbalchの式の扱い方と酸性・塩基性の病態機序を詳述
- 第4回: 水分調節維持と病態生理
水分調節に関わる各種ホルモンと器官の概説と内分泌疾患の特殊病態の詳述
- 第5回: 体温調節維持と病態生理
体温調節中枢とサイトカイン応答・温度設定・発汗様式と病態生理を詳述
- 第6回: 循環及び血圧調節と疾患ならびに薬物治療の背景
循環・血圧の液性・神経性調節の概説と病態疾患・薬物治療の背景を詳述
- 第7回: ホルモン調節と病態生理
血糖調節を中心としたホルモン調節と異常を呈する疾患の病態生理を詳述
- 第8回: 各疾患の栄養摂取法
PEG/PEG/IVHなどの臨床上の栄養摂取法と問題点を詳述する
- 第9回: エネルギー代謝調節と病態生理
3大栄養素のエネルギー代謝の生化学上の背景と異常を呈する病態生理の詳述
- 第10回: 消化器機能異常と病態生理
栄養素の吸収・代謝調節に関わる酵素系・輸送系異常の各種疾患の病態生理の詳述
- 第11回: 腎機能の病態生理と各種疾患
腎機能異常から酸塩基平衡・吸収排泄異常と各種代表的疾患の病態生理の詳述
- 第12回: 呼吸機能の病態生理と各種疾患
呼吸機能異常疾患と酸塩基平衡・病態生理など各種代表的疾患の病態生理の詳述
- 第13回: アレルギーの病態と自己免疫疾患
免疫系細胞群とアレルギー分類(I~IV)・自己免疫疾患(Vを含む)の病態生理の詳述
- 第14回: 自律神経調節とその病態生理
自律神経系と食とが関連する反射病態とその病態生理学を詳述
- 第15回: 各種神経疾患と栄養学
中枢神経疾患と重要生理活性物質・神経伝達物質に必要な栄養素との関わりを詳述
- 別回 定期試験

使用テキスト: 特になし。
講義資料は、適宜、教員から配布する。

参考書1) 図解入門 よくわかる最新実験計画法の基本と仕組み[第2版] 森田浩(著)
秀和システム; 第2版
参考書2) 統計数理科学書など

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 配布資料内にある太字(=重要関連用語)の理解に努めることが、予習・復習のポイントである。

障がいのある履修者への対応: 授業履修前に学務部に連絡、相談して下さい。授業内では、可能な限り対応を行ないません。

授業時間外の連絡手段: 鯨井の研究室訪問か、または鯨井の大学メールアドレスにて連絡をとること。

留意事項: 受講時には、計算機、鏡、カラーペン、定規などの持参が必要である。

科目コード: 72010 **科目ナンバリング:** GF50B03E **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 人間栄養学演習(Seminar on human nutrition)

担当者: 梶田 泰孝、鯨井 隆、桐井 恭子

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：演習

曜時：水曜7限

履修可能学科・専攻：GF

関連資格：教職

AL要素：04.課題解決

14.輪読活動

授業の概要： 本授業は3名の教員により、オムニバス形式で実施する。

【梶田】

無機質等に関する学术论文について読解およびデータの解釈を行います。さらには、過剰症や欠乏症など、無機質が関係する危険などについても学習していきます。

【鯨井】

毎回の講義内容につき、研究的な課題設定する。次週の講義開始時点で、理解力と考察力を把握する問題に取り組む事としました。この手法により、実社会に役立つような思考力養成を目指して行きます。

例えば、「中枢神経系の疾患」に関する栄養学的な考え方を、事例演習問題や学術英語論文の

精読とディスカッションを通して具体的に学習していきます。

【桐井】

栄養素と疾病との関連を検討した栄養疫学研究的論文を精読し、論文を読む際の注意点、

データの解釈等について理解できるようにします。研究結果から導きだされた疾病予防効果についてもディスカッション等で学習していきます。

キーワード： 【梶田】 無機質の代謝、データの見方

【鯨井】 脳疾患の病態生理、脳疾患の栄養科学

【桐井】 栄養疫学、生活習慣病予防

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 【梶田】

現在の栄養素の摂取状況を知り、その原因等を理解できること。

【鯨井】

脳疾患の病態生理学を知り、それに対応する妥当な栄養代謝学の視点から治療意義を理解出来ること。

【桐井】

栄養疫学の研究手法について理解できること。

評価方法： 【梶田】

ディスカッションおよび提出課題より評価する。

評価割合： 45%

【鯨井】

課題用の英語論文を読んで、その内容につき、論述記載(字数制限あり)の回答(Forms使用)の内容をもって、100点満点で評価する。

【桐井】

論文読解に関する課題内容により評価する

▼思考力・判断力・表現力

到達目標：【梶田】

栄養素摂取状況から、潜む危険性を推測し、その対応を考える能力が修得できること。

【鯨井】

基本的な脳解剖生理学を理解し、代謝生化学的視点で、脳栄養学上の脳機能的ネットワーク改善法の考え方と代謝計算学的能力を修得出来ること。

【桐井】

栄養疫学の研究デザインとそれぞれの特長に応じた論文解釈が修得できること。

評価方法：【梶田】

評価割合：45%

ディスカッションおよび提出課題より評価する。

【鯨井】

脳解剖と脳栄養学試験で50点
代謝関連の簡易計算試験で50点の計100点満点で評価する

【桐井】

栄養疫学論文に関する課題内容により評価する。

▼学修に主体的に取り組む態度

授業の出席状況、実習に参加する態度から総合的に評価する。

評価割合：10%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 演習テーマである栄養学的諸問題を国際学術論文の精読を通してその研究法を学びます。

【梶田】

- ・オリエンテーション(英語論文の指定)
- ・栄養素の利用・代謝、基礎的研究に関する講義とディスカッション
- ・動物実験の活用と人間栄養学
- ・無機質の過剰・不足摂取に関する学術英語論文の精読とディスカッション
- ・ビタミンの過剰・不足摂取に関する学術英語論文の精読とディスカッション

【鯨井】

- ・オリエンテーション(中枢神経系の疾患の病態生理と英語論文の指定)
- ・脳血管障害に関する栄養学的な考え方の事例演習(1)
- ・錐体外路系疾患や認知症疾患に関する栄養学的な考え方の事例演習(2)
- ・cognitive regulatory system disturbanceに関する学術英語論文の精読とディスカッション(1)
- ・gene-related metabolic CNS disordersに関する学術英語論文の精読とディスカッション(2)

【桐井】

- ・オリエンテーション(英語論文の指定と概要説明)
- ・栄養疫学研究の知識
- ・人の栄養・生活習慣状況と疾病との関連についての予備知識
- ・栄養・生活習慣と疾病に関する学術英語論文の精読とディスカッション(1)
- ・栄養・生活習慣と疾病に関する学術英語論文の精読とディスカッション(2)

使用テキスト: 各担当者の初回授業時にプリントおよび参考資料等の配付を行います。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 【梶田】初回授業時にプリントの配布、予習・復習等の指示を行います。

【鯨井】脳機能解剖ならびに脳代謝生化学の図譜集をプリント作成して配布する予定。プリント内にある重要関連用語の理解に努めることが、予習・復習のポイントである。

【桐井】授業の際に資料配布とともに、説明および課題提示を行います。

障がいのある履修者への対応: 授業履修前に学務部に連絡、相談して下さい。授業内では、可能な限り対応を行ないます。

授業時間外の連絡手段: 各教員の研究室訪問、または教員宛ての大学メールアドレスにて連絡をとること。

留意事項: 人間栄養学分野の学生は必修（事前準備予習には、2～3時間が必要）。

科目コード: 72011 科目ナンバリング: GF50B04J 主な使用言語: 日本語

授業名(英文): 人間栄養学特別実習(Advanced experiment on human nutrition)

担当者: 田井 勇毅、桐井 恭子

基本情報

年次: 1	単位数: 1	授業形式: 実習
曜時: 金曜7限		履修可能学科・専攻: GF
関連資格: 教職		AL要素: 03. 実験・実技・体験 15. レポート指導

授業の概要: 本授業は、2名の教員によりオムニバス形式で行う。

【桐井】

保健所等でのプログラム事例(食育・生活習慣病対策)を検討し、どのプログラムが有効的か、問題点及び優れた点について理論的に考察する。また、実際にプログラムを計画し、討議による評価を行い、より効果的な公衆栄養活動ができる力を養う。

【田井】

より健康に生活するための栄養と運動の役割について理解し、対象者に応じた栄養サポート方法について学修することで、理論・知識・スキルを体系化した栄養管理を実施できる力を養う。

キーワード: 【桐井】 公衆栄養プログラム、公衆栄養活動
【田井】 栄養サポート、エネルギー消費量、最大酸素摂取量、スポーツ栄養

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 【桐井】

公衆栄養活動に有効な栄養プログラムを検討し、効果的な活動の組み立てについて修得する。

【田井】

対象者に応じた栄養アセスメントが実践できる。
科学的根拠に基づき、栄養サポート計画を提示することが出来る。

評価方法: 【桐井】

課題内容

評価割合: 40%

【田井】

プレゼンテーション

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 【桐井】

授業で得た知識をもとに、実際の栄養マネジメント能力を高める。

【田井】

対象者に応じた、栄養サポート計画を提示することが出来る。
栄養サポートの評価について、科学的根拠や自身の経験を踏まえて考察し、論理的に自らの考えを述べる事が出来る。

評価方法: 【桐井】

課題内容等

評価割合: 40%

【田井】

プレゼンテーション

▼学修に主体的に取り組む態度

授業の出席状況、実習に参加する態度から総合的に評価する。

評価割合: 20%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼その他

特に無し。

評価割合: 特に無し。

授業計画: 【担当: 桐井】

【第1回】地域アセスメントの概要

【第2回】公衆栄養プログラムの実例と検討

【第3回】公衆栄養に関する課題の抽出

- 【第4回】栄養プログラムの計画
- 【第5回】作成した栄養プログラムについての討議と評価

【担当：田井】

- 【第6回】対象者に応じた栄養アセスメント(1)
- 【第7回】対象者に応じた栄養アセスメント(2)
- 【第8回】栄養サポート
- 【第9回】対象者に応じた栄養サポート計画の立案
- 【第10回】運動中のエネルギー消費量と最大酸素摂取量の測定
- 【第11回】運動処方
- 【第12回】スポーツ選手に対する栄養サポート(1)
- 【第13回】スポーツ選手に対する栄養サポート(2)
- 【第14回】栄養サポートの評価(1)
- 【第15回】栄養サポートの評価(2)

使用テキスト：【桐井】 授業資料は印刷して配布する。

【田井】 授業資料は印刷して配布する。

予習・復習のポイントと 【桐井】

参考文献・資料等： 本学卒業生は、2、3年次における講義と実習内の公衆栄養プログラムについて復習しておくこと。その他の学生も公衆栄養プログラムについて予習しておくこと。

【田井】

栄養アセスメント(各種食事調査やエネルギー必要量の推定方法)や日本人の食事摂取基準について理解しておくこと。本学卒業生は、3年時の運動生理学、4年時の運動栄養生理学実験の内容についても復習を行なっておくこと。

障がいのある履修者への対応： 授業履修前に学務部に連絡、相談を行なって下さい。授業内では、可能な限り対応を行ないます。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応を行ないます。

留意事項：【桐井】 USBメモリーを持参すること。

【田井】 運動時は、運動の出来る服装、シューズ、着替え、タオルを準備して授業に参加すること。プレゼンテーションでは、プレゼンテーション終了後に教員がコメントを述べてフィードバックする。

科目コード：72013 科目ナンバリング：GF60C01K 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：分子栄養学特論(Advanced molecular nutrition)

担当者：米代 武司

基本情報

年次：2

単位数：2

授業形式：講義

曜時：土曜3限

履修可能学科・専攻：GF

関連資格：教職

AL要素：17. 発問と回答

授業の概要：【特例期間中の授業形態】遠隔授業(オンデマンド型・動画説明資料)と課題研究型を組み合わせ実施。
分子栄養学特論では、栄養素・食品成分や生活習慣環境が脂肪組織の遺伝子・たんぱく質発現量やエネルギー代謝に与える影響について学修し、生活習慣病予防への応用の可能性を考察する。
これらから、分子栄養学的研究を国民の健康課題の解決に役立てる考え方を理解する。

キーワード: 栄養、代謝、肥満、糖尿病、遺伝子発現

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 分子栄養学の基盤となる分子生物学について、各栄養素による遺伝子発現の調節について理解する。
近年発表された学術論文から遺伝子と生活習慣病の発症について検討を行えるようにする。

評価方法: 指定論文の読解力と理解度 **評価割合:** 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 指定論文を読んで適切な内容で説明することが出来る。研究内容の問題点か課題を抽出し、今後の研究で行うべき残された疑問を挙げることが出来る。

評価方法: 指定論文の内容に対する討論 **評価割合:** 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な超過対象とはしない。ただし、指定論文の事前学習状況については「知識・技能」に含めて評価する。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象としない。

評価割合: 0%

▼その他

直接的な評価対象としない。

評価割合: 直接的な評価対象としない。

授業計画:

- 【第1回】オリエンテーション
- 【第2回】分子栄養学の基礎
- 【第3回】生活環境と遺伝子発現、たんぱく質発現
- 【第4回】生活環境とエネルギー代謝(基礎研究)
- 【第5回】生活環境とエネルギー代謝(臨床研究)
- 【第6回】生活環境と肥満、糖尿病(基礎研究)
- 【第7回】生活環境と肥満、糖尿病(臨床研究)
- 【第8回】食品成分とエネルギー代謝(基礎研究)
- 【第9回】食品成分とエネルギー代謝(臨床研究Ⅰ)
- 【第10回】食品成分とエネルギー代謝(臨床研究Ⅱ)
- 【第11回】アミノ酸代謝分解とエネルギー代謝(基礎研究)
- 【第12回】アミノ酸代謝分解とエネルギー代謝(臨床研究)
- 【第13回】エネルギー代謝に関連する遺伝子多型
- 【第14回】生活習慣病に関連する遺伝子多型
- 【第15回】総括

使用テキスト: テキストは試用せず、資料の配布を行う。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 指定論文を講義前に読み、内容を理解する(各授業前90分)。講義後は、講義中に深めた論文内容の理解と考察、残された検証課題、研究の限界について再考察し、国内の健康課題を解決するための研究方法を考える(各授業後90分)。

障がいのある履修者への対応: 事前に学務部へご相談ください。学務部への相談内容を踏まえて、授業内では可能な限り対応を行います。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーの時間帯に研究室で対応します。

留意事項：特になし。

科目コード：72014 科目ナンバリング：GF50C01K 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：栄養生理学特論(Advanced nutrition physiology)

担当者：坂倉 有紀

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：金曜6限

履修可能学科・専攻：GF

関連資格：教職

AL要素：17 発問と回答

授業の概要：生活習慣病、特に肥満、糖尿病、動脈硬化に対する栄養素の影響、疾病予防や生体調節機能として注目されている特定保健用食品を中心的にとりあげ、文献読解と発表を行い、理解を深める。医学・栄養学の情報が科学的根拠に基づくものか考える力を養う。

キーワード：生活習慣病、特定保健用食品、食品成分、栄養代謝

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標：授業で解説を受けた栄養素の働きについて、概ね80%の事項を暗記し、回答することができる。

評価方法：小テスト

評価割合：30%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標：授業で扱った内容について自主学修によって得た知見や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法：レポート
発表

評価割合：70%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価の対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果がレポートや発表内容により認められる場合は、上記項目の思考力・判断力・表現力の評価の対象とすることがある。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価の対象とはしない。しかしボランティア活動等の実践により深められた知見がレポート等により認められる場合は、上記項目の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価の対象とはしない。しかし授業中の発言やレポートにおいて、人権侵害や差別発言、公正を欠く言動があった場合は、減点し厳重注意とするため、注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：

【特例期間中の授業形態】課題研究型
と【特例期間中の授業形態】遠隔授業(オンデマンド型)で行います

- 1.Introduction
- 2.Evidence Based Medicine
- 3.科学情報の収集方法・学術論文の検索
- 4.摂食制御のメカニズム
- 5.糖代謝のメカニズム
- 6.食と糖尿病
- 7.脂質代謝のメカニズム
- 8.コレステロール代謝の分子メカニズム
- 9.食と肥満、メタボリックインドローム
- 10.たんぱく質
- 11.血圧調節のメカニズム
- 12.ミネラル等
- 13.発表1 食品由来成分と代謝
- 14.発表2 各種ガイドラインから考える
- 15.まとめ

使用テキスト: プリントを配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 授業後、授業内容について復習し、関連事項について自主学修を通じ知見を深めることが望ましい(60分)。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますが、まずは学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します。

留意事項: 発表を行っていただきますので、パワーポイントが使えるようにしておいてください。
大学院 社会人が多く、日程は土曜日や夜を使って、お互いに日程の合う日をすり合わせて実施しています。
受講する際にご相談ください。

課題に対するフィードバックについては全体的なコメントを行う予定です

科目コード: 72015 **科目ナンバリング:** GF60C02K **主な使用言語:** 日本語または英語

授業名(英文): 神経栄養学特論(Advanced nutrition and the central nervous system)

担当者: 鯨井 隆

基本情報

年次: 2

単位数: 2

授業形式: 講義

曜時: 土曜6限

履修可能学科・専攻: GF

関連資格: 教職

AL要素: AL要素

17.発問と回答

授業の概要:

毎回の講義内容につき、研究的な課題設定する。次週の講義開始時点で、理解力と考察力を把握する問題に取り組む事としました。この手法により、実社会に役立つような思考力養成を目指して行きます。

現代社会に生きるための脳栄養学概説である。基本的な、脳解剖や機能生理学から始まって、栄養代謝学的内容を、主に生化学や画像診断学、計算論、ネットワーク問題も盛り込

みながら、現代人の諸問題を脳栄養の観点から学習して行くものです。

キーワード: 脳栄養、神経解剖学、血液脳関門、脳代謝生化学

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 健全な脳栄養代謝学と脳機能異常に関する病態生理を神経栄養学的な観点から学習する。現代脳科学の進歩に対して時代即応性のある神経成長因子・神経サイトカイン・IGF-1などの神経栄養の関連生理活性物質を中心に、新しい治療戦略的な研究・薬学開発も紹介しながら、脳栄養学の基本的な考え方を身につける事を狙いとする。

評価方法: 学期末試験100点満点で60点の配分とする **評価割合: 50%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 臨床の立場などで、それぞれの病態や疾患を対象とした上で、問題意識と代謝上の改善策をしっかりと考察し、改善に向ける方策を立てられる事。

評価方法: 学期末試験100点満点で40点を配分する **評価割合: 50%**

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼その他

特になし。

評価割合: 特になし。

授業計画:

- 1回 ガイダンスと健全脳機能概説
- 2回 シナプスと神経伝達物質
- 3回 神経伝達物質の代謝及び栄養学
- 4回 神経伝達物質と心
- 5回 ストレスと脳内栄養代謝調節
- 6回 学習理論と神経伝達物質・機能回路
- 7回 神経栄養因子・神経成長因子とその種類
- 8回 神経サイトカイン
- 9回 意識・集中度に関する神経回路調節
- 10回 食欲調節に関わる生理活性物質と病態生理
- 11回 脳内リズムと脳内時計
- 12回 時空間脳内アルゴリズムの病態生理と生理活性物質
- 13回 半側空間失認と体外離脱現象
- 14回 神経栄養学からの新治療戦略
- 15回 複雑ネットワーク・カオス・食と脳クオリア
- 16回 定期試験

使用テキスト: 特にないが、その都度関連資料を配布する。

参考書1) 図解入門 よくわかる最新実験計画法の基本と仕組み[第2版] 森田浩(著)
秀和システム; 第2版

参考書2)統計数理科学書など

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 講義資料と参考論文等は、事前に配布するので、予習並びに受講後の復習に役立てて下さい。

障がいのある履修者への対応： 授業履修前に学務部に連絡、相談して下さい。授業内では、可能な限り対応を行ないません。

授業時間外の連絡手段： 鯨井の研究室訪問か、または鯨井の大学メールアドレスにて連絡をとること。

留意事項： 留意事項

選択科目ではあるが、事前準備予習には、1～2時間が必要。
受講時には、計算機、鏡、カラーペン、定規などの持参が必要である。

科目コード：72016 **科目ナンバリング：**GF50C02K **主な使用言語：**日本語または英語

授業名(英文)：神経生理学特論(Advanced neurophysiology)

担当者：鯨井 隆

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：土曜7限

履修可能学科・専攻：GF

関連資格：教職

AL要素：AL要素

17発問と回答

授業の概要： 現代の少子高齢化や生活習慣病・脳血管障害・精神疾患などの主たる疾患に向けて、脳・神経系の機能を中心にその病態と治療方策の理解を深めるのが狙いである。また各傷病者の食事摂取障害や機能障害を具体的にあげて、どのような対策・工夫ができるかを思索出来るように講義を進めて行く。

緊急事態宣言下またはその他の事情でOL施行が確定した場合は、授業コード番号をもとに、チームズ画面で受講となる。この場合は、「課題研究型」となる。毎回出席票問題の回答、自主学習及び発展学習的な課題がある。この課題は学期末試験問題の対象ともなるので、しっかり取り組む事を推奨する。

キーワード： 神経機能学、神経解剖学、中枢性神経疾患、末梢性神経疾患、認知神経科学

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 各神経疾患の病態生理学を知り、それに対応する妥当な神経機能解剖学の視点から総合医学として理解出来る、実際上の臨床応用問題(症例の問題点把握力)を自らの力で解決できること。

評価方法： 学期末試験施行の計100点満点のうち、6割相当の配当点(60点)で評価する **評価割合：**45%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 各神経疾患の病態代謝学を知り、それに対応する妥当な臨床神経生化学・臨床薬理学の視点から総合医学として理解出来る、実際上の臨床応用問題(症例の問題点把握力)の代謝

数理計算を自らの力で解決できること。

評価方法: 学期末試験施行の計100点満点のうち、4割相当の配当点(40点)で評価する **評価割合: 45%**

▼学修に主体的に取り組む態度

授業の出席状況や出席票問題正答率、課題提出物などの態度から総合的に評価する。

評価割合: 10%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼その他

特になし。

評価割合: 特になし。

授業計画: 臨床で問題となる神経機能調節の病態に関する解剖生理学を具体的に学習する。

1. オリエンテーション(食物栄養摂取と神経機能調節)
中枢神経系の機能維持には食する内容の含有物質の量と相関するものが多く知られている。ここでは導入部としてのそうした物質と食事内容を関係を総説する
2. 嗅覚・味覚・視覚機能とその病態
これらの感覚入力機能維持に必要な物質と不足・過剰に伴う機能異常を生化学・生理学病態として詳述
3. 咀嚼と嚥下の機能調節とその病態
咀嚼・嚥下に関わる脳幹神経調節と大脳下行性のSubstance-Pなどの物質的調節に関して詳述
4. 消化・吸収に関わる神経機能調節とその病態
脳相・胃相・腸相に関わる神経調節と消化管ホルモンにつき詳述する
5. 排便・排尿に関わる神経機能調節とその病態
括約筋機能調節に関わる内臓知覚・運動調節機能を概説し、これらの異常を呈する各種疾患の病態生理を詳述する
6. 栄養障害が原因となる神経疾患(認知障害関連疾患)
高齢者に多いアルツハイマー類縁疾患の中に栄養代謝障害に伴うものがあり臨床上重要である。ここでは、治療可能な疾患群としてその病態生理を詳述する
7. 栄養障害が原因となる神経疾患(精神機能障害関連疾患)
うつ・耽溺・注意障害等の精神障害を呈する栄養障害の病態生理を詳述
8. 脳血管障害による咀嚼・嚥下機能障害のNSTとしての関わり方
大脳・脳幹系の咀嚼・嚥下調節機能を半球間・ドーパミン・substance-Pなどの生理活性物質からNSTの評価・取り組み方を概説する
9. 脳血管障害による代表的な神経・精神機能障害のNSTとしての関わり方
合併する知覚・運動障害やうつ状態などの諸症状に対してのNSTとしての取り組み方を概説する。
10. 脳血管障害による高次脳機能障害のNSTとしての関わり方
記憶障害・病態失認・左視空間無視などの病態の理解と栄養摂取の取り組み方・対策を概説する

11. ストレスと神経・精神機能障害
 ストレスからの鬱・食欲低下・腹部症状の捉え方と病態生理・対策について詳述
12. 糖尿病・生活習慣病などの神経合併症と考え方
 3大合併症・睡眠時無呼吸・ED・反応性低血圧・消化管異常などの病態生理と対策について詳述する
13. その他の代謝性疾患と神経合併症と考え方
 肝疾患・靛疾患・甲状腺疾患・高脂血症・各種酵素異常(PKUなど)に伴う代表的な神経合併症の病態生理の詳述
14. 神経難病と自己免疫疾患としての神経疾患
 長期罹病の神経難病の多くは栄養学的な問題を孕み、現場での栄養代謝評価・対応について概説し、栄養法・栄養学的な視点での対策法を詳述
15. 脳波計測の非線形数理解析とその意義
 健常者は無論の事、多くの神経学的異常の病態生理を脳波的に概説し、今後の神経生理学の方向性を詳述する
- 16回 定期試験

使用テキスト: 特になし。

参考書1) 図解入門 よくわかる最新実験計画法の基本と仕組み[第2版] 森田浩(著)
 秀和システム; 第2版
 参考書2) 統計数理科学書など

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 必要な参考資料を配布し、その中にある重要な点は、説明を加えて要点を述べて置く。その要点を理解する事と配布資料中の図譜を理解して置くことが、ポイントとなる。

参考文献は、教員が各院生にPDFで配布する。
 また資料は、神経解剖学・ニューロン活動、脳内ネットワーク理論などがある。
 各資料の重要な点は、全て講義中に説明する。

障がいのある履修者への対応: 授業履修前に学務部に連絡、相談して下さい。授業内では、可能な限り対応を行ないません。

授業時間外の連絡手段: 鯨井の研究室訪問か、または鯨井の大学メールアドレスにて連絡をとること。

留意事項: 選択科目ではあるが、事前準備予習には、1~2時間が必要。
 受講時には、計算機、鏡、カラーペン、定規などの持参が必要である。

科目コード: 72017 科目ナンバリング: GF50C03K 主な使用言語: 日本語

授業名(英文): 病態臨床栄養学特論(Advanced clinical nutrition)

担当者: 石川 祐一、鴨志田 敏郎

基本情報

年次: 1 単位数: 2 授業形式: 講義

曜時: 前期(集中講義)、後期(集中講義) 履修可能学科・専攻: GF

関連資格: 教職 AL要素: 17:発問と回答

授業の概要: 管理栄養士は、病院などの医療現場において傷病者の栄養管理を任される立場にあり、チーム医療の一員として、求められる知識や技術は高いものとなりつつある。この講義では傷病者の栄養アセスメントからはじまる栄養ケア・マネジメントについて、具体例を取り入れながら、医療現場における管理栄養士の役割を習得させる。
 また、栄養部門の管理者として求められるマネジメント管理(医療制度、介護保険制度、栄養

部門の収支も含めた)についても習得する。
なお「多様なメディアを利用した授業」(同時双方向型、オンデマンド型等)を併用した授業も
選択可とする

キーワード: NST、栄養ケアマネジメント、チーム医療、医療保険制度、介護保険制度、地域包括ケア

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 授業で解説を受けた内容を理解し、80%程度を暗記し、実践に落とし込むことができる。

評価方法: 授業態度、講師との問答で判断する。 **評価割合:** 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 与えられた課題に対し、適切に問題解決できること。また、課題解決についてまとめることができ、その内容をプレゼンできる。

評価方法: 課題解決のためのレポート、プレゼン内容 **評価割合:** 50%
によって評価する。

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価方法とはしない。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価方法とはしない。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしないが、授業中の発言や、レポート、プレゼンの記述、発表等において人権侵害、差別的発言などがあつた場合は減点や嚴重注意の対象となる。

評価割合: 0%

▼その他

特記すべきことはない。

評価割合: 特記すべきことはない。

授業計画: (鴨志田 敏郎)

- 第1回 NSTの意義
- 第2回 栄養ケア・マネジメントの構築(1)
- 第3回 栄養ケア・マネジメントの構築(2)
- 第4回 チーム医療、管理栄養士と他職種との連携
- 第5回 臨床検査法
- 第5回 栄養補給法(経静脈栄養)
- 第6回 栄養補給法(経腸栄養)
- (石川 祐一)
- 第7回 診療報酬と介護報酬
- 第8回 災害発生時における栄養管理
- 第9回 病態別食事療法 (1) 循環器疾患患者の食事療法と栄養管理
- 第10回 " (2) 消化器疾患患者の食事療法と栄養管理
- 第11回 " (3) 腎疾患患者の食事療法と栄養管理
- 第12回 " (4) NSTにおける栄養管理
- 第13回 " (5) 術前・術後患者の食事療法と栄養管理
- 第14回 " (6) 地域包括ケアにおける栄養管理のあり方
- 第15回 総括

使用テキスト: NST完全ガイド・改訂版『経腸栄養・静脈栄養の基礎と実践』編集 東口高志 (株)照林社 病態栄養専門医テキスト『認定専門医をめざすために』編集 日本病態栄養学会 (株)南江堂 そのほ

か必要に応じて、国際学術論文の精読や参考図書、配布資料を用いる。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 次回授業計画にある内容について、臨床栄養関連の書籍を一読し医療用語等について再確認しておいてください。
授業内容により復習を兼ねてレポート等の課題を提示することがあります。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。曜日、時限等については初回にお知らせします。

留意事項： 特記すべきことはない。

科目コード：72018 科目ナンバリング：GF50C04K 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：保健統計学特論(Advanced health statistics)

担当者：桐井 恭子

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：土曜1限

履修可能学科・専攻：GF

関連資格：教職

AL要素：10.資料調査課題、
11.討論

授業の概要： 栄養及び食と健康・疾病との関係を科学的に解明するために、統計の知識と技法を習得することは重要である。本授業により、栄養科学研究に不可欠な統計学の基礎知識を身につけ、研究・調査の結果を読み解き、自らも食事、栄養、健康に関するデータを分析できる力を養う。

キーワード： 統計解析、分析、栄養学研究

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 1.資料等を基に、我が国の栄養統計調査の実際を学ぶ。
2.講義および討議により統計学の知識を身に付ける。

評価方法： 課題レポートで評価する。

評価割合： 40%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 実際に統計ソフトを用いてデータを解析し、研究に必要な統計手法を実践的に習得する。

評価方法： 課題レポートで評価する。

評価割合： 40%

▼学修に主体的に取り組む態度

出席状況、研究に取り組む態度から総合的に評価する。

評価割合： 20%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼その他

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：直接的な評価対象とはしない。

- 授業計画：
1. 栄養科学と統計学
 2. わが国の栄養に関する統計調査(1)
 3. わが国の栄養に関する統計調査(2)
 4. データの種類
 5. 度数分布図と代表値
 6. データの散布度、正規分布
 7. 検定の考え方、母集団と標本集団
 8. 質問票を用いた調査
 9. 調査結果の集計方法
 10. 分析統計の種類と選択
 11. 記述統計の実際(1)
 12. 記述統計の実際(2)
 13. 分析統計の実際(1)
 14. 分析統計の実際(2)
 15. 総括
- ※順序が変わることがあります。

使用テキスト： 授業時に適宜配布します。

予習・復習のポイントと 授業の資料提示時に説明します。
参考文献・資料等：

障がいのある 授業履修前に学務部に連絡、相談して下さい。可能な限り対応を行います。
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。

留意事項： 特になし。

科目コード：72019 科目ナンバリング：GF50C05K 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：食教育特論(Advanced food education)

担当者：桐井 恭子、西出 朱美

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：土曜1限

履修可能学科・専攻：GF

関連資格：教職

AL要素：10.資料調査課題、
11.討論など

授業の概要：

食習慣の変容が著しい現代社会では、朝食の欠食、偏食、個食、中食や外食の増加など食習慣の乱れや生活習慣病による健康障害などの課題を抱え、日本人の食環境の改善が急務の状況にある。特に、心身の発達時期にある幼児、児童、生徒などの子どもたちにとっては、小さい頃から正しい食習慣を身につけることは、将来の疾病予防にもつながる重要な課題である。子供、また成人における正しい食のあり方を学び、その術を身につけ、自ら健康な身体を作り上げていくための総合的な食の指導について習得する。

キーワード：食育、学童・生徒、食習慣、食行動

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 児童生徒の発達に合わせた望ましい食習慣や、食の自己管理能力を高めるための指導内容、指導方法、評価法を資料や教材をもとに検討する。

評価方法： 課題レポートで評価する。

評価割合： 40%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 食に関する様々な指導の実践例について考察し、食を指導する力を養う。

評価方法： 課題レポートで評価する。

評価割合： 40%

▼学修に主体的に取り組む態度

出席状況、授業に取り組む態度から総合的に評価する。

評価割合： 20%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼その他

直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 直接的な評価対象とはしない。

- 授業計画：**
- 第1回 現代の食が抱える課題についての問題提起(生活習慣病の背景)
 - 第2回 日本の食生活と食事文化の歴史
 - 第3回 食の変遷を扱った資料の検討
 - 第4回 児童及び生徒の栄養に係る諸問題
 - 第5回 食育の実態把握・分析
 - 第6回 食育に関する最新の調査研究
 - 第7回 食育に関わる日本の法令諸制度
 - 第8回 栄養の指導及び管理の意義
 - 第9回 国内における食教育(学校、行政)
 - 第10回 国内の食教育実践活動(地場産品の活用の方策等)
 - 第11回 海外における食教育
 - 第12回 海外の食教育実践活動
 - 第13回 食に関する指導案・媒体の検討
 - 第14回 食教育に関する指導計画の作成
 - 第15回 本授業のポイントと総まとめ

使用テキスト： 必要に応じた参考文献、資料を提示します。

予習・復習のポイントと

参考文献・資料等： 必要資料は適宜提示または指示します。

障がいのある履修者への対応： 授業履修前に学務部に連絡、相談して下さい。可能な限り対応を行います。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。

留意事項： 特になし。

科目コード : 72025 科目ナンバリング : GF60C06K 主な使用言語 : 日本語

授業名(英文) : 障害者支援特論(Advanced support on the handicapped)

担当者 : 望月 珠美

基本情報

年次 : 2

単位数 : 2

授業形式 : 講義

曜時 : 金曜5限

履修可能学科・専攻 : GF

関連資格 : 教職

AL要素 : 07 発表

11 討論

14 輪読活動

16 振り返り用紙と応答

17 発問と回答

授業の概要 : 障害児・者支援の実際とその理論的背景について、研究論文や映像等を題材にしてより具体的、実践的かつ検証的な観点から学ぶ。あわせて、自らが実際に支援計画を立案する作業を通して支援対象となる者のニーズ充足のために果たす各専門職の役割と連携の在り方について学ぶ。

キーワード : 障害特性 行動様式 発達課題 支援計画 連携

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標 : さまざまな障害の特性とともにその行動様式についての適切な理解をもとに短期から長期的な展望をもって個の成長とともに生活の質の向上をめざした支援を展開するための技能を修得する。

評価方法 : レポート
発表

評価割合 : 50%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標 : 講義で扱った内容について、学修や体験を通して得られた知見に基づいて科学的に考察し、倫理的かつ端的に自らの考えを表現することができる。

評価方法 : レポート
発表

評価割合 : 50%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な数値に還元される評価対象としては扱わない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に加味された成果等がレポートの記述や発表内容に認められる場合には、「思考力・判断力・表現力」の豊かさ、的確さの対象として評価に加えることがある。

評価割合 : 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な数値に還元される評価対象としては扱わない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見がレポートや発表内容により認められる場合には、「思考力・判断力・表現力」の豊かさ、的確さの対象として評価に加えることがある。

評価割合 : 0%

▼ 公正性

直接的な数値に還元される評価対象としては扱わない。ただし、人権や多様な価値観に対する配慮を著しく欠く表現については減点の対象とし、「思考力・判断力・表現力」の評価に反映されるので十分に注意すること。

評価割合 : 0%

▼ その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画： 第1回 オリエンテーション
第2回 自らの障害観を明らかにする
第3回 障害臨床における支援の枠組み
第4回 生活と障害
第5回 発達と障害
第6回 地域、社会と障害
第7回 生活をめぐる現状と課題
第8回 発達をめぐる現状と課題
第9回 地域、社会と障害をめぐる現状と課題
第10回 特性論(身体障害)
第11回 特性論(知的障害)
第12回 特性論(精神障害)
第13回 特性論(重複障害等)
第14回 支援と連携
第15回 まとめ

*受講生の人数や専門性により、内容や順番が変わる可能性がある

使用テキスト： 指定テキストはありません。各回、講義担当者が必要に応じてレジュメ、資料、文献等を配布もしくは紹介します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 予習：予め各授業回のテーマや内容に関連する文献や事例に目を通し、概要や関連用語について把握しておくこと。読み方や意味の理解が不十分な用語については各自で調べ、確認しておくこと(例えば、障害名や疾患名、各種法律など)。復習：配布済み資料等を用いて授業内容を復習する。あわせて、授業内容を発展させ、茨城県や在住する地域社会の統計資料や自治体の取り組みなどについての自主学修を通じ知見を深めることが望ましい。参考文献等については、必要に応じて、適宜、紹介する。

障がいのある履修者への対応： ニーズに応じた多様な支援を行います。まずは担当者もしくは学務部までご相談ください。

授業時間外の連絡手段： 原則としてオフィスアワーに担当者研究室(大学6号館4階6415研究室)で対応します。オフィスアワーの詳細についてはUNIPAでご確認ください。緊急時は、学務部にご連絡ください。

留意事項： 履修生の人数やご事情、またこれまでの学修等によって開講時間や内容に変更が生じることがあります。詳しくは講義担当者にお尋ねください。

科目コード：72026 科目ナンバリング：GF60C07K 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：障害児教育研究(Research in Special Needs Education)

担当者：齋藤 遼太郎

基本情報

年次：2

単位数：2

授業形式：講義

曜時：金曜4限

履修可能学科・専攻：GF

関連資格：教職

AL要素：07. 発表

10. 資料調査課題

11. 討論

14. 輪読活動

授業の概要: 【目的】特別支援教育の対象となる様々な障害の成因や心理特性について、心理学と生理学の側面から理解する。また、アセスメントとして、各種心理検査の活用方法について理解する。

【方法】各講義の前半では、担当学生がテーマに沿った発表を、パワーポイント等を用いて行う。その後、講義の後半では、発表内容を踏まえた受講者同士による質疑応答や意見交換、教員による解説を行う。全15回の講義の後には、最終レポートによる講義内容の振り返りを行う。

キーワード: 心理学、生理学、アセスメント、発達障害

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 様々な障害の心理学的特性やアセスメントに関する基礎的・基本的な事項について概ね80%説明することができる。

評価方法: 最終レポート

評価割合: 60%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 様々な障害の心理学的特性やアセスメントについての到達点や課題について、論理的に思考し、他者の意見を聞きつつ、自分の意見を整理し、発表することができる。

評価方法: 小レポート

評価割合: 40%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、毎回の授業終了後に取り組むリアクションシートにおいて、自主学修によって得た知見や経験が記載される場合は、上記の項目「思考力・表現力・判断力」の評価対象とすることができる。

評価割合: 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が最終レポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることができる。

評価割合: 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中のグループディスカッションや最終レポートの記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼ その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: 第1回: ガイダンス 特別支援教育における心理学的視点の重要性

第2回: 特別支援教育の現在

第3回: 知的障害の定義とその種類

第4回: 知的障害の心理特性

第5回: 自閉症スペクトラム障害の定義とその種類

第6回: 自閉症スペクトラム障害の心理特性

第7回: 注意欠陥多動性障害の定義とその種類

第8回: 注意欠陥多動性障害の心理特性

第9回: 学習障害の定義とその種類

第10回: 学習障害の心理特性

第11回: 出生前診断と生命倫理

第12回: 障害児のアセスメント(1) 田中ビネー式知能検査

第13回: 障害児のアセスメント(2)ウェクスラー式知能検査
第14回: 障害児のアセスメント(3)K-ABC II
第15回: 障害児の心理学的理解についてのまとめ
最終レポート

使用テキスト: 必要に応じて授業内で紹介する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 発表担当の学生は、個別に発表内容についてパワーポイント等を用いて整理してくること。また、それ以外の学生についても、各自事前に予習をしてこること。参考文献については、授業中に随時紹介する。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

留意事項: 特になし

科目コード: 72027 **科目ナンバリング:** GF60C08K **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 発達心理学特論(Special Studies in Developmental Psychology)

担当者: 江尻 桂子

基本情報

年次: 2

単位数: 2

授業形式: 講義

曜時: 金曜5限

履修可能学科・専攻: GF

関連資格: 教職

AL要素: 07. 発表
08. 共同学習
09. 資料調査課題
11. 討論
14. 輪読活動
15. レポート指導
16. 振り返り用紙と応答

授業の概要: 受講希望者(履修者)が決まった段階で、授業日程や曜日・時限について、相談して決めます。授業の形式については、UNIPAにて掲示しますので、「初回授業の前日」までにご確認下さい。

【授業の概要】人が生まれてから死に至るまでどのような生涯発達過程をたどるのか、また、各発達段階においてどのような問題に出会うのかということ、発達心理学の観点から理解します。授業では、上記の問題について、文献(書籍や論文)をもとに最新の研究成果を読み解くことを通して理解します。これによって、現在の子どもたちの発達の様相、また、子どもを取り囲むさまざまな問題について理解し、考察します。さらに、発達心理学が、個々のリサーチ・クエスチョンについて、どのような手法により解明してゆくのか、また、研究で得た知見をどのように社会に還元してゆくのかを理解します。担当教員の専門領域や研究活動については次のサイトをご覧ください。{<https://www.icc.ac.jp/ejiri/index.html>}

キーワード: 子ども 家族 乳幼児 児童 青年 成人 高齢者 障害児者 心理 発達心理学 教育心理学 家族心理学

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 「生涯発達過程における諸問題について発達心理学の立場から理解する」というテーマのもと、各自が研究資料(文献)をまとめて、レポートを作成・発表する。これらを通して上記のテーマについて深く理解し、考察することができる。

評価方法: 発表(論文紹介)、レポート

評価割合: 70%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 様々な研究論文を読み進めるなかで上記のテーマについて考察したことについて、論理的かつ簡潔な文章で表現することができる。さらに、自分自身の意見や考察を論理的に述べることができる。

評価方法: 授業への参加・コメント(発言)、他者の発表へのコメントシート
評価割合: 30%

▼学修に主体的に取り組む態度

授業で扱う内容について自分自身で資料を収集したり、そのまとめを行ったり(レジュメの作成)、作成したレジュメに基づき発表を行ったりしますので、それらに対する準備を求めます。また、自分自身の発表に対する他の受講生からの質問やコメントに対して回答を行うことを期待します。さらに、他の受講生らの発表内容に対して意見を述べたり、それに対するコメントを準備してくることを期待します。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティアリズム

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記述等において認められる場合には、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言やレポートの記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合場合は、減点や嚴重注意の対象となる。さらには、剽窃や盗用(引用元を示さずに他者の文章をそのままコピーするなどした場合も含む)を行った場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: 第1回:授業の概略と到達目標
第2回:研究の基礎を理解する(1)テーマ設定
第3回:研究の基礎を理解する(2)レポート執筆の手順
第4回:人を対象とする研究における研究倫理の問題
第5回:胎児期～乳児期の様相とその発達課題
第6回:幼児期の様相とその発達課題
第7回:学童期の様相とその発達課題
第8回:思春期の様相とその発達課題
第9回:成人期・中年期の様相とその発達課題
第10回:老年期の様相とその発達課題
第11回:障害児・者の発達とその支援
第12回:現代の家族の諸問題と、子育て支援
第13回:現代の家族の諸問題と、家族の支援
第14回:家族の臨床と病理
第15回:発達心理学の総まとめ

使用テキスト: 授業に関連する資料は、全て配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 日頃から新聞や書籍を通して、子どもの発達や教育に関する問題に触れるようにしてください。論文のまとめ方や、レポートの書き方については以下の参考文献を推奨します。
田中共子『よくわかる学びの技法』ミネルヴァ書房 2010年
山田 剛史・林 創『大学生のためのリサーチリテラシー入門』ミネルヴァ書房 2011年

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限についてはIC UNIPAで確認してください。

留意事項: 授業の日程や曜日・時間帯については、初回の授業で、受講生と相談のうえ、必要に応じて調整を行う予定です。

科目コード: 72028 科目ナンバリング: GF60C09E 主な使用言語: 日本語

授業名(英文): 発達心理学演習(Seminar in Developmental Psychology)

担当者: 江尻 桂子

基本情報

年次: 2

単位数: 2

授業形式: 演習

曜時: 金曜6限

履修可能学科・専攻: GF

関連資格: 教職

AL要素: 07. 発表
08. 共同学習
09. 資料調査課題
11. 討論
14. 輪読活動
15. レポート指導
16. 振り返り用紙と応答

授業の概要: 受講希望者(履修者)が決まった段階で、授業日程や曜日・時限について、相談して決めます。今後の感染状況によっては、授業の形式を変更することがあります。UNIPAにて掲示しますので必ず「初回授業の前日」までにご確認下さい。

発達心理学や臨床発達心理学、家族心理学における最近の研究について、主要な学術雑誌より論文を選び、論文の概要をまとめて考察を加えた上で、紹介する。そして、乳児期から老年期までの生涯発達の過程で出会うさまざまな問題について、現在、何がどこまで明らかにされているのかを理解する。また、論文を読み進める中で、さまざまな研究手法(実験 vs 調査 vs 観察手法、量的研究 vs 質的研究など)について知識を得るとともに、データの分析方法や、結果の読み方、解釈や考察の方法などについて理解を深める。さらに、心理学論文の基本的構成(目的・方法・結果・考察)や執筆の上での基本的事項を学ぶ。

キーワード: 子ども 家族 乳幼児 児童 青年 成人 高齢者 障害児者 心理 発達心理学 教育心理学 家族心理学

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 各自が選んだ研究テーマのもと、各々が研究資料(文献)をまとめて、レポートを作成・発表することができる。これらを通して上記のテーマについて深く理解し、考察することができる。

評価方法: 発表(論文紹介)、レポート

評価割合: 70%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 様々な研究論文を読み進めるなかで考察したことや理解したこと等について、論理的かつ簡潔な文章で表現することができる。さらに、自分自身の意見や考察を論理的に述べることができる。

評価方法:

評価割合: 30%

授業への参加・コメント(発言)、他者の発表へのコメントシート

▼ 学修に主体的に取り組む態度

授業で扱う内容について自分自身で資料を収集したり、そのまとめを行ったり(レジュメの作成)、作成したレジュメに基づき発表を行ったりしますので、それらに対する準備を求めます。また、自分自身の発表に対する他の受講生からの質問やコメントに対して回答を行うことを期待します。さらに、他の受講生らの発

表内容に対して意見を述べたり、それに対するコメントを準備してくることを期待します。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記述等において認められる場合には、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言やレポートの記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合場合は、減点や嚴重注意の対象となる。さらには、剽窃や盗用（引用元を示さずに他者の文章をそのままコピーするなどした場合も含む）を行った場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画：
- 第1回 この授業の概要と到達目標
 - 第2回 論文の検索方法・読み方・まとめ方(1)
 - 第3回 論文の検索方法・読み方・まとめ方(2)
 - 第4回 発表レジュメの作成方法と発表技法(1)
 - 第5回 発表レジュメの作成方法と発表技法(2)
 - 第6回 発表(論文紹介)(1) 乳児期の発達と諸問題
 - 第7回 発表(論文紹介)(2) 幼児期の発達と諸問題
 - 第8回 発表(論文紹介)(3) 学童期の発達と諸問題
 - 第9回 発表(論文紹介)(4) 青年期の発達と諸問題
 - 第10回 発表(論文紹介)(5) 成人期の発達と諸問題
 - 第11回 発表(論文紹介)(6) 老年期の発達と諸問題
 - 第12回 発表(論文紹介)(7) 発達心理学と他の学問との複合領域に関わる問題
 - 第13回 発達の観点から考える現代の子どもたちの教育の問題
 - 第14回 発達の観点から考える現代の子どもたちの福祉の問題
 - 第15回 発達心理学演習の総まとめ

使用テキスト： 授業に関連する資料は、全て配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 日頃から新聞や書籍を通して、子どもの発達や教育に関する問題に触れるようにしてください。論文のまとめ方や、レポートの書き方については以下の参考文献を推奨します。
田中共子『よくわかる学びの技法』ミネルヴァ書房 2010年
山田 剛史・林 創『大学生のためのリサーチリテラシー入門』ミネルヴァ書房 2011年

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限についてはIC UNIPAで確認してください。

留意事項： 授業の日程や曜日・時間帯については、初回の授業で、受講生と相談のうえ、必要に応じて調整を行う予定です。
担当教員の専門領域や研究活動については次のサイトをご覧ください。
{<https://www.icc.ac.jp/ejiri/index.html>}

科目コード：72030

科目ナンバリング：GF50C09K

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：ライフステージ栄養学特論

担当者：会田 さゆり

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：火曜7限

履修可能学科・専攻：GF

関連資格：教職

AL要素：15.レポート指導
17.発問と回答

授業の概要：

人間は生命を維持するために「栄養」は必要不可欠であるが、最適な「栄養」は、人生の各段階、つまり各ライフステージに見合った適切な「栄養」の配慮が必要である。
本講義では、各ライフステージにおける心理的および生理的特徴・特性の理解をするとともに、そのライフステージで発生する栄養関連疾患について、その発症機序を栄養生理の面から認識し、栄養ケアの実践的技法を修得する。

キーワード： 各ライフステージ、心理的特性、生理的特性、各栄養ケア

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 各ライフステージにおいて、発生頻度の高い栄養関連疾患について言及しその機序及び栄養ケアについて理解することを到達目標とする。

評価方法： 課題レポート

評価割合： 70%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 修得した知識・技能を展開し具体的な栄養ケアプランを立案することができる。

評価方法： 課題レポート

評価割合： 30%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画： 第1回：オリエンテーション
第2回：妊娠期について
第3回：授乳期について
第4回：新生児期・乳児期について
第5回：幼児期について(その1:心理的および生理的特徴・特性)
第6回： // (その2:栄養関連疾患の発生機序および栄養ケア)
第7回：学童期について(その1:心理的および生理的特徴・特性)
第8回： // (その2:栄養関連疾患の発生機序および栄養ケア)
第9回：思春期について(その1:心理的および生理的特徴・特性)
第10回： // (その2:栄養関連疾患の発生機序および栄養ケア)
第11回：成人期について(その1:心理的および生理的特徴・特性)
第12回： // (その2:栄養関連疾患の発生機序および栄養ケア)

- 第13回:高齢期について(その1:心理的および生理的特徴・特性)
第14回: " (その2:栄養関連疾患の発生機序および栄養ケア)
第15回:総括及び理解度の確認とプレゼン

使用テキスト: 日本病態栄養学会 病態栄養ガイドブック(南江堂)

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 主体的学修に取り組み知見を深める参考書・参考資料として5点推薦する。
参考書・参考資料等

日本肥満学会 肥満症診療ガイドライン
日本肥満学会 小児肥満症診療ガイドライン
日本糖尿病学会 糖尿病治療ガイド
日本糖尿病学会・日本小児内分泌学会 小児・思春期1型糖尿病の診療ガイド
日本小児アレルギー学会 食物アレルギー診療ガイドライン
その他、学術論文・参考文献等については授業時に指示する。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーなど研究室で対応します。

留意事項: 課題に対するフィードバックの方法:対面またはメールにて評価、助言し対応する。

科目コード: 72031 **科目ナンバリング:** GF50C10K **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 医療栄養学特論

担当者: 坂倉 有紀

基本情報

年次: 1 **単位数:** 2 **授業形式:** 講義

曜時: 金曜6限 **履修可能学科・専攻:** GF

関連資格: 教職 **AL要素:** 17発問と回答

授業の概要: 疾病の栄養食事療法と治療への貢献について、学ぶ。栄養や治療の効果について各種学会ガイドラインとそのエビデンスとなっている学術論文の読解を通して学ぶ。また、近年、国際標準化が図られている栄養の記録や栄養診断について学ぶ。

キーワード: 栄養療法、大規模臨床試験、ガイドライン、エビデンス、栄養診断

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 授業で解説を受けた内容について、概ね80%の事項を暗記し、回答することができる。

評価方法: 小テスト **評価割合:** 30%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で扱った内容について自主学修によって得た知見や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法: レポート
発表 **評価割合:** 70%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価の対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果がレポートや発表内容により認められる場合は、上記項目の思考力・判断力・表現力の評価の対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価の対象とはしない。しかしボランティア活動等の実践により深められた知見がレポート等により

認められる場合は、上記項目の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価の対象とはしない。しかし授業中の発言やレポートにおいて、人権侵害や差別発言、公正を欠く言動があった場合は、減点し厳重注意とするため、注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：

1. 医の記録について
2. 国際標準化のための栄養診断の考え方
3. 疾患の栄養食事療法による治療
4. 疾病の診療 Guidelines と栄養食事療法
5. Evidence-Based Medicine/ Nutrition
6. 地中海食とその効果
7. 食事療法の大規模臨床試験について DIRECT study
8. 食事療法の大規模臨床試験について PREDIMED study
9. 食事療法の大規模臨床試験について その他
10. 発表 食事療法の効果について検討した学術論文を講読し、発表・討論する。
11. 大規模臨床試験について1
12. 大規模臨床試験について2
13. 発表① 学会ガイドラインに示されている病態と栄養に関する学術論文を講読し、発表・討論する。
14. 発表② 学会ガイドラインに示されている栄養食事療法に関する学術論文を講読し、発表・討論する。
15. まとめ 小課題について

【特例期間中の授業形態】課題研究型
と【特例期間中の授業形態】遠隔授業(オンデマンド型)で行います

使用テキスト： プリントを配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業後、授業内容について復習し、関連事項について自主学修を通じ知見を深めることが望ましい(30分)。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますが、まずは学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。

留意事項： 発表を行っていただきますので、パワーポイントが使えるようにしておいてください。

大学院の方は受講する際にご相談ください。

発表課題があるので、そちらができる方に履修をお勧めいたします。

課題に対するフィードバックについては全体的なコメントを行う予定です

科目コード：72032 科目ナンバリング：GF50C11K 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：食行動科学特論

担当者：坂倉 有紀

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：金曜7限

履修可能学科・専攻：GF

関連資格：教職

AL要素：17 発問と回答

授業の概要： 栄養教育における行動科学理論を解説し、栄養教育への活用について学ぶ。実際に報告されている栄養教育の介入事例を文献的にとりあげ、討論し栄養教育と行動科学理論の理解を深める。また、特定健康診査・特定保健指導の実際について、栄養教育、運動、禁煙について、症例を交えて個別に学ぶ。

キーワード： 行動科学、栄養教育、特定保健指導

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業で解説を受けた内容について、概ね80%の事項を暗記し、回答することができる。

評価方法： 小テスト

評価割合： 30%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で扱った内容について自主学修によって得た知見や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法： レポート
発表

評価割合： 70%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価の対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果がレポートや発表内容により認められる場合は、上記項目の思考力・判断力・表現力の評価の対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価の対象とはしない。しかしボランティア活動等の実践により深められた知見がレポート等により認められる場合は、上記項目の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価の対象とはしない。しかし授業中の発言やレポートにおいて、人権侵害や差別発言、公正を欠く言動があった場合は、減点し厳重注意とするため、注意すること。

評価割合： 0%

▼その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画：

- 1.行動科学理論
- 2.カウンセリング技法
- 3.コーチングの考え方① 受容・共感的応答・承認 人は認められるとやる気が起きる
- 4.コーチングの考え方② 質問・提案
- 5.タイプ別コミュニケーション
- 6.特定健康診査・特定保健指導について
- 7.特定保健指導の実際 ケーススタディ①動機付け支援
- 8.特定保健指導の実際 ケーススタディ②積極的支援
- 9.運動指導について 運動の効果
- 10.運動指導について 運動の種類
- 11.禁煙の支援について
- 12.減酒の支援について
- 13.特定保健指導の介入研究について 討論と発表
- 14.栄養教育の介入研究について 討論と発表
- 15.まとめ

【特例期間中の授業形態】課題研究型
と【特例期間中の授業形態】遠隔授業(オンデマンド型)で行います

使用テキスト： プリントを配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業後、授業内容について復習し、関連事項について自主学修を通じ知見を深めることが望ましい(30分)。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますが、まずは学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。

留意事項： 発表を行っていただきますので、パワーポイントが使えるようにしておいてください。
大学院の方は受講する際に日程等ご相談ください。

課題に対するフィードバックについては全体的なコメントを行います

科目コード：72033 **科目ナンバリング：GF50C12K** **主な使用言語：日本語**

授業名(英文)：食品開発特論

担当者：大貫 和恵

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：木曜7限

履修可能学科・専攻：GF

関連資格：教職

**AL要素：08 協同学修
15レポート指導
17発問と回答**

授業の概要： 現在、未利用資源を含む食品の研究開発により、生理機能を重視した付加価値の高い食品が普及している。特定の加工食品等を例に挙げ、栄養学的側面に加え、それらの加工特性や機能性を理解しつつ、それに関する近年の社会的要請や研究状況の詳細を学ぶ。

キーワード： 食品開発、加工品

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 社会的ニーズと研究開発過程などを理解し、機能性を有する食品素材を利用した加工食品の特徴を説明できるようになることを到達目標とする。

評価方法: レポート

評価割合: 70%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で扱った内容について、自主学修によって得た知識をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現、発表、討論することができる。

評価方法: レポート
発表

評価割合: 30%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼その他

特になし。

評価割合: 特になし。

- 授業計画:**
- 第1回:オリエンテーション
 - 第2回:食品素材として注目されている成分(機能性成分等)
 - 第3回:食品素材の生産技術とその利用
 - 第4回:食品素材開発の基礎研究事例
 - 第5回:加工食品の生産技術
 - 第6回:農産および畜産加工食品とその特性について
 - 第7回:水産加工食品とその特性について
 - 第8回:食用油脂とその特性について1(食用油脂の種類)
 - 第9回:食用油脂とその特性について2(食用油脂の特性)
 - 第10回:食用油脂とトランス脂肪酸1(トランス脂肪酸の生成)
 - 第11回:食用油脂とトランス脂肪酸2(トランス脂肪酸の影響)
 - 第12回:自作可能な加工食品の企画提案・作成について1(企画提案)
 - 第13回:自作可能な加工食品の企画提案・作成について2(企画作成)
 - 第14回:まとめ1(発表)
 - 第15回:まとめ2(討論)

使用テキスト: 授業時に使用する資料は、随時、印刷・配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 授業前には、その回の分野のわからない用語を調べる(30分)。
授業後には、配付資料について復習するとともに、資料にない関連事項について自主学修を通じ知見を深めることが望ましい(30分)。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します。

留意事項: 食品学、食品加工学、調理科学分野および統計処理の内容を復習しておくこと。

レポート課題については、データの場合、Teamsの課題機能を利用して提出物を確認後にコメントを付与する。紙媒体の場合、レポートに直接コメントを付与する。
質問等については、随時、授業時、IC-UNIPAやTeamsに回答を提示する。

科目コード : 72034 科目ナンバリング : GF50C13K 主な使用言語 : 日本語

授業名(英文) : 調理科学特論

担当者 : 大貫 和恵

基本情報

年次 : 1

単位数 : 2

授業形式 : 講義

曜時 : 木曜7限

履修可能学科・専攻 : GF

関連資格 : 教職

AL要素 : 08 協同学修
15レポート指導
17発問と回答

授業の概要 : 嗜好性に大きな影響をおよぼす加熱加工を中心に、食品とヒトの嗜好性の関連について学ぶとともに、国内外の最新のデータや論文を読解し、学問的な理解を深める。

キーワード : 食品開発、官能評価、嗜好性、色、粘度

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標 : 調理および加工過程で起こる食品の成分の変化や構造変化に伴うテクスチャーの変化、ヒトの嗜好的因子とその評価(官能評価)について理解する。

評価方法 : レポート

評価割合 : 70%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標 : 授業で扱った内容について、自主学修によって得た知識をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現、発表、討論することができる。

評価方法 : レポート
発表

評価割合 : 30%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。

評価割合 : 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合 : 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合 : 0%

▼ その他

特になし。

評価割合 : 特になし。

授業計画 : 第1回:オリエンテーション
おいしさを決める要因について1(テクスチャー等)
第2回:おいしさを決める要因について2(色、粘度等)
第3回:官能評価について1(味覚、嗅覚、視覚、嗜好性)

- 第4回:官能評価について2(試料の選定、評価用紙)
- 第5回:官能評価(順位法)のその分析(評価方法)
- 第6回:官能評価(2点嗜好法)とその分析(分析法)
- 第7回:官能評価(評点法)とその分析(評価方法)
- 第8回:官能評価の試料・評価法の選定(テーマ学習)
- 第9回:官能評価用紙の作成(テーマ学習)
- 第10回:官能評価の実施(テーマ学習)
- 第11回:官能評価(順位法)の評価と分析(テーマ学習)
- 第12回:官能評価(2点嗜好法)の評価と分析(テーマ学習)
- 第13回:官能評価(5段階評点法)の評価と分析(テーマ学習)
- 第14回:官能評価の発表(テーマ学習)
- 第15回:まとめ

使用テキスト: 授業時に使用する資料は、随時、印刷・配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 授業前には、その回の方野のわからない用語を調べる(30分)。授業後には、配付資料について復習するとともに、資料にない関連事項について自主学習を通じ知見を深めることが望ましい(30分)。参考書として下記を推薦する。
「三訂 食品の官能評価・鑑別演習」日本フードスペシャリスト協会編(建帛社)

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します。

留意事項: 食品学、食品加工学、調理科学分野および統計処理の内容を復習しておくこと。レポート課題については、データの場合、Teamsの課題機能を利用して提出物を確認後にコメントを付与する。紙媒体の場合、レポートに直接コメントを付与する。質問等については、随時、授業時、IC-UNIPAやTeamsに回答を提示する。

科目コード: 73004 **科目ナンバリング:** **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 発達心理学特論(Special Studies in Developmental Psychology)

担当者: 江尻 桂子

基本情報

年次: 1 **単位数:** 2 **授業形式:** 講義

曜時: 金曜5限 **履修可能学科・専攻:** GP GP

関連資格: **AL要素:** 07. 発表
08. 共同学習
09. 資料調査課題
11. 討論
14. 輪読活動
15. レポート指導
16. 振り返り用紙と応答

授業の概要: 受講希望者(履修者)が決まった段階で、授業日程や曜日・時限について、相談して決めます。今後の感染状況によっては、授業の形式を変更することがあります。UNIPAにて掲示しますので必ず「初回授業の前日」までにご確認下さい。
【授業の概要】人が生まれてから死に至るまでどのような生涯発達過程をたどるのか、また、各発達段階においてどのような問題に出会うのかということ、発達心理学の観点から理解します。授業では、上記の問題について、文献(書籍や論文)をもとに最新の研究成果を読み解くことを通して理解します。これによって、現在の子どもたちの発達の様相、また、子どもを取り囲むさまざまな問題について理解し、考察します。さらに、発達心理学が、個々のリサーチ・クエスチョンについて、どのような手法により解明してゆくのか、また、研究で得た知

見をどのように社会に還元してゆくのかを理解します。担当教員の専門領域や研究活動については次のサイトをご覧ください。{<https://www.icc.ac.jp/ejiri/index.html>}

キーワード: 子ども 家族 乳幼児 児童 青年 成人 高齢者 障害児者 心理 発達心理学 教育心理学 家族心理学

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 「生涯発達過程における諸問題について発達心理学の立場から理解する」というテーマのもと、各自が研究資料(文献)をまとめて、レポートを作成・発表する。これらを通して上記のテーマについて深く理解し、考察することができる。

評価方法: 発表(論文紹介)、レポート

評価割合: 70%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 様々な研究論文を読み進めるなかで上記のテーマについて考察したことについて、論理的かつ簡潔な文章で表現することができる。さらに、自分自身の意見や考察を論理的に述べるができる。

評価方法:

評価割合: 30%

授業への参加・コメント(発言)、他者の発表へのコメントシート

▼ 学修に主体的に取り組む態度

授業で扱う内容について自分自身で資料を収集したり、そのまとめを行ったり(レジュメの作成)、作成したレジュメに基づき発表を行ったりしますので、それらに対する準備を求めます。また、自分自身の発表に対する他の受講生からの質問やコメントに対して回答を行うことを期待します。さらに、他の受講生らの発表内容に対して意見を述べたり、それに対するコメントを準備してくることを期待します。

評価割合: 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記述等において認められる場合には、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言やレポートの記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合場合は、減点や嚴重注意の対象となる。さらには、剽窃や盗用(引用元を示さずに他者の文章をそのままコピーするなどした場合も含む)を行った場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼ その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画:

- 第1回: 授業の概略と到達目標
- 第2回: 研究の基礎を理解する(1) テーマ設定
- 第3回: 研究の基礎を理解する(2) レポート執筆の手順
- 第4回: 人を対象とする研究における研究倫理の問題
- 第5回: 胎児期～乳児期の様相とその発達課題
- 第6回: 幼児期の様相とその発達課題
- 第7回: 学童期の様相とその発達課題
- 第8回: 思春期の様相とその発達課題
- 第9回: 成人期・中年期の様相とその発達課題
- 第10回: 老年期の様相とその発達課題
- 第11回: 障害児・者の発達とその支援
- 第12回: 現代の家族の諸問題と、子育て支援

- 第13回:現代の家族の諸問題と、家族の支援
第14回:家族の臨床と病理
第15回:発達心理学の総まとめ

使用テキスト: 授業に関連する資料は、全て配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 日頃から新聞や書籍を通して、子どもの発達や教育に関する問題に触れるようにしてください。論文のまとめ方や、レポートの書き方については以下の参考文献を推奨します。
田中共子『よくわかる学びの技法』ミネルヴァ書房 2010年
山田 剛史・林 創『大学生のためのリサーチリテラシー入門』ミネルヴァ書房 2011年

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限についてはIC UNIPAで確認してください。

留意事項: 授業の日程や曜日・時間帯については、初回の授業で、受講生と相談のうえ、必要に応じて調整を行う予定です。

科目コード: 73005 **科目ナンバリング:** **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 発達心理学演習(Seminar in Developmental Psychology)

担当者: 江尻 桂子

基本情報

年次: 1

単位数: 2

授業形式: 演習

曜時: 金曜6限

履修可能学科・専攻: GP GP

関連資格:

AL要素: 07. 発表
08. 共同学習
09. 資料調査課題
11. 討論
14. 輪読活動
15. レポート指導
16. 振り返り用紙と応答

授業の概要: 受講希望者(履修者)が決まった段階で、授業日程や曜日・時限について、相談して決めます。授業の形式については、UNIPAにて掲示しますので、「初回授業の前日」までにご確認下さい。

発達心理学や臨床発達心理学、家族心理学における最近の研究について、主要な学術雑誌より論文を選び、論文の概要をまとめて考察を加えた上で、紹介する。そして、乳児期から老年期までの生涯発達の過程で出会うさまざまな問題について、現在、何がどこまで明らかにされているのかを理解する。また、論文を読み進める中で、さまざまな研究手法(実験 vs 調査 vs 観察手法、量的研究 vs 質的研究など)について知識を得るとともに、データの分析方法や、結果の読み方、解釈や考察の方法などについて理解を深める。さらに、心理学論文の基本的構成(目的・方法・結果・考察)や執筆の上での基本的事項を学ぶ。

キーワード: 子ども 家族 乳幼児 児童 青年 成人 高齢者 障害児者 心理 発達心理学 教育心理学 家族心理学

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 各自が選んだ研究テーマのもと、各々が研究資料(文献)をまとめて、レポートを作成・発表することができる。これらを通して上記のテーマについて深く理解し、考察することができる。

評価方法: 発表(論文紹介)、レポート

評価割合: 70%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 様々な研究論文を読み進めるなかで考察したことや理解したこと等について、論理的かつ簡潔な文章で表現することができる。さらに、自分自身の意見や考察を論理的に述べるができる。

評価方法:

評価割合: 30%

授業への参加・コメント(発言)、他者の発表へのコメントシート

▼学修に主体的に取り組む態度

授業で扱う内容について自分自身で資料を収集したり、そのまとめを行ったり(レジュメの作成)、作成したレジュメに基づき発表を行ったりしますので、それらに対する準備を求めます。また、自分自身の発表に対する他の受講生からの質問やコメントに対して回答を行うことを期待します。さらに、他の受講生らの発表内容に対して意見を述べたり、それに対するコメントを準備してくることを期待します。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記述等において認められる場合には、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言やレポートの記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合場合は、減点や厳重注意の対象となる。さらには、剽窃や盗用(引用元を示さずに他者の文章をそのままコピーするなどした場合も含む)を行った場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

- 授業計画:**
- 第1回 この授業の概要と到達目標
 - 第2回 論文の検索方法・読み方・まとめ方(1)
 - 第3回 論文の検索方法・読み方・まとめ方(2)
 - 第4回 発表レジュメの作成方法と発表技法(1)
 - 第5回 発表レジュメの作成方法と発表技法(2)
 - 第6回 発表(論文紹介)(1) 乳児期の発達と諸問題
 - 第7回 発表(論文紹介)(2) 幼児期の発達と諸問題
 - 第8回 発表(論文紹介)(3) 学童期の発達と諸問題
 - 第9回 発表(論文紹介)(4) 青年期の発達と諸問題
 - 第10回 発表(論文紹介)(5) 成人期の発達と諸問題
 - 第11回 発表(論文紹介)(6) 老年期の発達と諸問題
 - 第12回 発表(論文紹介)(7) 発達心理学と他の学問との複合領域に関わる問題
 - 第13回 発達の観点から考える現代の子どもたちの教育の問題
 - 第14回 発達の観点から考える現代の子どもたちの福祉の問題
 - 第15回 発達心理学演習の総まとめ

使用テキスト: 授業に関連する資料は、全て配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 日頃から新聞や書籍を通して、子どもの発達や教育に関する問題に触れるようにしてください。論文のまとめ方や、レポートの書き方については以下の参考文献を推奨します。
田中共子『よくわかる学びの技法』ミネルヴァ書房 2010年
山田 剛史・林 創『大学生のためのリサーチリテラシー入門』ミネルヴァ書房 2011年

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限についてはIC UNIPAで確認してください。

留意事項: 授業の日程や曜日・時間帯については、初回の授業で、受講生と相談のうえ、必要に応じて調整を行う予定です。

担当教員の専門領域や研究活動については次のサイトをご覧ください。
{<https://www.icc.ac.jp/ejiri/index.html>}

科目コード:73006 科目ナンバリング: 主な使用言語:日本語

授業名(英文): 特別支援教育特論(Special Studies in Special Education)

担当者: 齋藤 遼太郎

基本情報

年次:1

単位数:2

授業形式:講義

曜時:金曜4限

履修可能学科・専攻: GP GP

関連資格:

AL要素: 07. 発表

10. 資料調査課題

11. 討論

14. 輪読活動

授業の概要: 【目的】特別支援教育の対象となる様々な障害の成因や心理特性について、心理学と生理学の側面から理解する。また、アセスメントとして、各種心理検査の活用方法について理解する。

【方法】各講義の前半では、担当学生がテーマに沿った発表を、パワーポイント等を用いて行う。その後、講義の後半では、発表内容を踏まえた受講者同士による質疑応答や意見交換、教員による解説を行う。全15回の講義の後には、最終レポートによる講義内容の振り返りを行う。

キーワード: 心理学、生理学、アセスメント、発達障害

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 様々な障害の心理学的特性やアセスメントに関する基礎的・基本的な事項について概ね80%説明することができる。

評価方法: 最終レポート

評価割合: 60%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 様々な障害の心理学的特性やアセスメントについての到達点や課題について、論理的に思考し、他者の意見を聞きつつ、自分の意見を整理し、発表することができる。

評価方法: 小レポート

評価割合: 40%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、毎回の授業終了後に取り組むリアクションシートにおいて、自主学修によって得た知見や経験が記載される場合は、上記の項目「思考力・表現力・判断力」の評価対象とすることができる。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が最終レポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることができる。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中のグループディスカッションや最終レポートの記述等において

て人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 第1回: ガイダンス 特別支援教育における心理学的視点の重要性
第2回: 特別支援教育の現在
第3回: 知的障害の定義とその種類
第4回: 知的障害の心理特性
第5回: 自閉症スペクトラム障害の定義とその種類
第6回: 自閉症スペクトラム障害の心理特性
第7回: 注意欠陥多動性障害の定義とその種類
第8回: 注意欠陥多動性障害の心理特性
第9回: 学習障害の定義とその種類
第10回: 学習障害の心理特性
第11回: 出生前診断と生命倫理
第12回: 障害児のアセスメント(1) 田中ビネー式知能検査
第13回: 障害児のアセスメント(2) ウェクスラー式知能検査
第14回: 障害児のアセスメント(3) K-ABC II
第15回: 障害児の心理学的理解についてのまとめ
最終レポート

使用テキスト： 必要に応じて授業内で紹介する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 発表担当の学生は、個別に発表内容についてパワーポイント等を用いて整理してくること。また、それ以外の学生についても、各自事前に予習をしてもらうこと。参考文献については、授業中に随時紹介する。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

留意事項： 特になし

科目コード：73007 科目ナンバリング： 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：心理学課題研究I(Thesis I)

担当者：青木 万里

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：演習

曜時：水曜4限

履修可能学科・専攻：GP GP

関連資格：

AL要素：07:発表

09:実地調査

10:資料調査課題

11:討論

15:レポート指導

授業の概要： 修士論文作成のために必要な研究能力を身につける。
研究の進捗状況について、毎授業ごとに発表を行い、それをもとに指導を行う

キーワード： 修士論文作成
研究能力
発表

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 自分自身の研究テーマに沿って、研究計画を立案し、研究を実践し、新たな研究知見を得る。それらをもとに論文を執筆し、修士論文を完成させることができる

評価方法: 修士論文
発表 **評価割合:** 50%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 研究活動を通して、論理的な思考・判断・表現能力を身につけることができる。研究から得られた結果を十分に考察しかつ簡潔に発表することができる

評価方法: 修士論文
発表 **評価割合:** 50%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし授業への参加、他者の尊重、報告・連絡・相談の姿勢、他者とのコミュニケーションの程度に著しく問題があると判断された場合は、減点や嚴重注意の対象となる

評価割合: 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない

評価割合: 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言やレポート内の記述において人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動があった場合、問題があると判断された場合は、減点や嚴重注意の対象となる

評価割合: 0%

▼ その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: 【第01回】オリエンテーション
【第02回】研究テーマの選定-1
【第03回】研究テーマの選定-2
【第04回】研究テーマの選定-3
【第05回】研究論文の検索とブックレポート発表-1
【第06回】研究論文の検索とブックレポート発表-2
【第07回】研究論文の検索とブックレポート発表-3
【第08回】研究テーマの整理-1
【第09回】研究テーマの整理-2
【第10回】研究テーマの整理-3
【第11回】研究計画 構成
【第12回】研究計画 執筆の手順
【第13回】研究計画 研究手法の選定-1
【第14回】研究計画 研究手法の選定-2
【第15回】研究計画 倫理申請

使用テキスト: 研究に必要な資料は印刷・配布する。ただし、個人が研究を進める上で必要な資料は受講生自身で収集し、適宜、印刷・配布する

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 各自の研究テーマについて日頃から意識して、情報収集に努めること

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください

授業時間外の連絡手段: 初回の授業でお伝えします

留意事項: 修士論文作成にあたり、心理学の専門的な知識や論理的な思考力はもちろん、主体性やコミュニケーション力も求められますので、自覚をもって研究に取り組んでください。

科目コード: 73007 **科目ナンバリング:** **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 心理学課題研究I b(Thesis I b)

担当者: 望月 珠美

基本情報

年次: 1

単位数: 2

授業形式: 演習

曜時: 水曜4限

履修可能学科・専攻: GP GP

関連資格:

AL要素: 04 課題解決
07 発表
09 実地調査
10 資料調査課題
11 討論
14 輪読活動
15 レポート指導

授業の概要: 福祉臨床心理学の理論と手法を用いて、包括的支援ならびに環境調整の視点を重視した心理実践に関する研究実践ならびに論文執筆のための指導を行う。指導は段階的に行う。本講はその基礎段階に位置づけられるものであり、研究課題の選択、決定とともに研究計画の立案を通して、研究倫理の重要性とその具体について学ぶ。

キーワード: 研究倫理 自立支援 BPSアプローチ 権利 発達支援 健全育成 連携

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 心理実践実習における自らの体験を題材として福祉心理臨床実践にかかわる研究課題を自ら選択、決定した上で、専門的知識、技術、倫理に照らし合わせ研究を行い、新たな知見を見出すことができる。

評価方法: レポート
報告
発表

評価割合: 50%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: これまでの学修や体験を通して得られた知見を科学的な視点をもって論じることができる。また、研究倫理にならびに公認心理師の職責に照らし合わせてふさわしい表現や解釈が可能である。

評価方法: レポート
報告
発表

評価割合: 50%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な数値に還元される評価対象としてはとり扱わない。ただし、自主的に優れた計画性を発揮し、課題への取り組みに好ましい成果が認められる場合には、「思考力・判断力・表現力」の豊かさ、的確さの対象として評価に加えることがある。

評価割合: 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な数値に還元される評価対象としてはとり扱わない。ただし、ボランティアな活動により深められた知見が成果として認められる場合には、「思考力・判断力・表現力」の豊かさ、的確さの対象として評価に加えることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な数値に還元される評価対象としてはとり扱わない。ただし、人権や多様な価値観に対する配慮を著しく欠く表現や剽窃、著作権の侵害に類する行為については減点の対象とし、「思考力・判断力・表現力」の評価に反映されるので十分に注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

- 授業計画：
- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 論文構成の基本
 - 第3回 研究の方法
 - 第4回 研究倫理
 - 第5回 論文を読む1(事例研究1)
 - 第6回 論文を読む2(事例研究2)
 - 第7回 論文を読む3(事例研究3)
 - 第8回 論文を読む4(事例研究4)
 - 第9回 研究構想1(イメージづくり)
 - 第10回 資料収集と分析
 - 第11回 構想発表
 - 第12回 構想検討(目的と方法)
 - 第13回 研究構想2(デザインづくり)
 - 第14回 研究構想3(工程づくり)
 - 第15回 まとめ

試験：口頭試問

使用テキスト：特になし。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 論文執筆作業は授業時間外に行う(予習)。指導後、適宜、加筆修正を行う(復習)。これらの作業の積み重ねを通して、研究課題への理解の深化を図るとともに論文としての完成度を高める。
参考文献、資料については必要に応じて授業の中で紹介する。

障がいのある履修者への対応： 個別のニーズに応じた多様な支援を行います。まずは授業担当者もしくは学務部にご相談ください。

授業時間外の連絡手段： 原則としてオフィスアワーに担当者研究室(大学6号館4階6415研究室)で対応します。オフィスアワーの詳細についてはUNIPAでご確認ください。緊急時は、学務部にご連絡ください。

留意事項：特になし。

科目コード：73008 科目ナンバリング： 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：心理学課題研究II(Thesis II)

担当者：青木 万里

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：演習

曜時：水曜4限

履修可能学科・専攻： GP GP

関連資格：

AL要素： 07: 発表

09: 実地調査

10: 資料調査課題

11: 討論

15: レポート指導

授業の概要： 修士論文作成のために必要な研究能力を身につける。研究の進捗状況について、毎授業ごとに発表を行い、それをもとに指導を行う

キーワード： 修士論文作成
研究能力
発表

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 自分自身の研究テーマに沿って、研究計画を立案し、研究を実践し、新たな研究知見を得る。それらをもとに論文を執筆し、修士論文を完成させることができる

評価方法： 修士論文
発表

評価割合： 50%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 研究活動を通して、論理的な思考・判断・表現能力を身につけることができる。研究から得られた結果を十分に考察しかつ簡潔に発表することができる

評価方法： 修士論文
発表

評価割合： 50%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし授業への参加、他者の尊重、報告・連絡・相談の姿勢、他者とのコミュニケーションの程度に著しく問題があると判断された場合は、減点や厳重注意の対象となる

評価割合： 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない

評価割合： 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言やレポート内の記述において人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動があった場合、問題があると判断された場合は、減点や厳重注意の対象となる

評価割合： 0%

▼ その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画： 【第01回】オリエンテーション
【第02回】研究進捗状況の報告-1
【第03回】研究進捗状況の報告-2
【第04回】研究進捗状況の報告-3
【第05回】研究フィールドの確保と研究方法の具体化
【第06回】研究フィールドでの調査-1
【第07回】研究フィールドでの調査-2
【第08回】研究中間報告-1

- 【第09回】研究中間報告-2
- 【第10回】研究中間報告-3
- 【第11回】研究論文指導-1
- 【第12回】研究論文指導-2
- 【第13回】研究論文指導-3
- 【第14回】論文執筆-1
- 【第15回】論文執筆-2

使用テキスト： 研究に必要な資料は印刷・配布する。ただし、個人が研究を進める上で必要な資料は受講生自身で収集し、適宜、印刷・配布する

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 各自の研究テーマについて日頃から意識して、情報収集に努めること

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください

授業時間外の連絡手段： 初回の授業でお伝えします

留意事項： 修士論文作成にあたり、心理学の専門的な知識や論理的な思考力はもちろん、主体性やコミュニケーション力も求められますので、自覚をもって研究に取り組んでください。

科目コード：73008 **科目ナンバリング：** **主な使用言語：**日本語

授業名(英文)：心理学課題研究II b(Thesis II b)

担当者：望月 珠美

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：演習

曜時：水曜4限

履修可能学科・専攻： GP GP

関連資格：

AL要素： 04 課題解決
07 発表
09 実地調査
10 資料調査課題
11 討論
14 輪読活動
15 レポート指導

授業の概要： 福祉臨床心理学の理論と手法を用いて、包括的支援ならびに環境調整の視点を重視した心理実践に関する研究実践ならびに論文執筆のための指導を行う。指導は段階的に行う。本講では、「心理実践課題研究 I」において立案した研究構想により詳細な検討を加えることにより、その実現可能性を高める。具体的には、先行研究による知見を交えながら、自らの研究課題について吟味・検討を重ね、研究目的の明確化と研究方法の決定を図る。同時に、心理実践実習における自らの体験を題材にグループ討議を行ったり関連文献の詳読等を通して研究課題についてさらに理解を深める。

キーワード： 福祉臨床 臨床心理 自立支援 BPSモデル BPSアプローチ 権利 発達支援 健全育成 連携

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 心理実践実習における自らの体験を題材として福祉心理臨床実践にかかわる研究課題を自ら選択、決定した上で、専門的知識、技術、倫理に照らし合わせ研究を行い、新たな知見を見出すことができる。

評価方法： レポート
報告

評価割合：50%

発表

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: これまでの学修や体験を通して得られた知見を科学的な視点をもって論じることができる。また、研究倫理にならびに公認心理師の職責に照らし合わせてふさわしい表現や解釈が可能である。

評価方法: レポート
報告
発表

評価割合: 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な数値に還元される評価対象としてはとり扱わない。ただし、自主的に優れた計画性を発揮し、課題への取り組みに好ましい成果が認められる場合には、「思考力・判断力・表現力」の豊かさ、的確さの対象として評価に加えることがある。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な数値に還元される評価対象としてはとり扱わない。ただし、ボランティアな活動により深められた知見が成果として認められる場合には、「思考力・判断力・表現力」の豊かさ、的確さの対象として評価に加えることがある。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な数値に還元される評価対象としてはとり扱わない。ただし、人権や多様な価値観に対する配慮を著しく欠く表現や剽窃、著作権の侵害に類する行為については減点の対象とし、「思考力・判断力・表現力」の評価に反映されるので十分に注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし。

評価割合: 特になし。

授業計画:

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 研究計画の立案
- 第3回 目的の設定
- 第4回 方法の検討
- 第5回 第一次報告と発表
- 第6回 計画の再調整
- 第7回 論文を読む1(関連論文の輪読)
- 第8回 論文を読む2(関連論文の輪読)
- 第9回 論文を読む3(関連論文の輪読)
- 第10回 デザイン発表にむけた準備1
- 第11回 デザイン発表にむけた準備2
- 第12回 デザイン発表会
- 第13回 デザイン発表会の講評
- 第14回 デザインの見直し、修正
- 第15回 まとめ

使用テキスト: 特になし。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 論文執筆作業は授業時間外に行う(予習)。指導後、適宜、加筆修正を行う(復習)。これらの作業の積み重ねを通して、研究課題への理解の深化を図るとともに論文としての完成度を高める。
参考文献、資料については必要に応じて授業の中で紹介する。

障がいのある履修者への対応: 個別のニーズに応じた多様な支援を行います。まずは授業担当者もしくは学務部に

相談ください。

授業時間外の連絡手段： 原則としてオフィスアワーに担当者研究室(大学6号館4階6415研究室)で対応します。オフィスアワーの詳細についてはUNIPAでご確認ください。緊急時は、学務部にご連絡ください。

留意事項： 特になし。

科目コード：73012 **科目ナンバリング：** **主な使用言語：**日本語
授業名(英文)：保健医療分野に関する理論と支援の展開(Support Theory and Applications in Medica
担当者：岩崎 真和

基本情報

年次：1 **単位数：**2 **授業形式：**講義
曜時：木曜4限 **履修可能学科・専攻：**GP GP
関連資格：公認心理(院) **AL要素：**11:討論
14:輪読活動
16:振り返り用紙と応答

授業の概要： 本講では保健医療分野における実践的な心理学的知見を学ぶ(公認心理師大学院養成課程必須科目)。指定テキストの各単元について輪読と討論, まとめのサイクルを繰り返す。なお, 履修大学院生のニーズや要望に応じて, 下記の授業計画に関し変更可能性がある。

キーワード： 保健医療分野に関わる公認心理師の実践

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 講義内容について, 概ね8割の事項を暗記し, レポート(プレゼンテーションを含む)できる。

評価方法： レポート **評価割合：**80%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 講義内容について, 自主的な学びで得た知見や経験も踏まえて考察し, 論理的かつ簡潔に論じることができる。

評価方法：リアクションペーパー **評価割合：**20%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしないが, 自主的な学びや経験がレポートの記述内容に認められる場合は, 上記の項目の評価に含めることがある。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしないが, 講義内の発言や筆記試験の記述等において人権の侵害や差別的発言など著しく公正性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は, 減点や注意の対象となるので留意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

- 授業計画：**
- 01 オリエンテーション
 - 02 医学と医療, 医療安全
 - 03 公認心理師の法的義務
 - 04 安全確保と情報共有
 - 05 保健医療分野に関わる法規と制度
 - 06 医療現場における公認心理師の役割と業務
 - 07 予診と初診
 - 08 カルテへの記載
 - 09 医師の指示
 - 10 DSMとICD
 - 11 精神科
 - 12 心療内科, その他(緩和ケア, 小児科等)
 - 13 個人と集団への関わり
 - 14 多職種協働と連携
 - 15 まとめ

使用テキスト： 五十嵐透子(2020)ヘルスケアワーカーのためのこころのエネルギーを高める対人関係情動論 第2版
”わかる”から”できる”へー 医歯薬出版
※前期より活用可能なテキストに思うので, 入学後にご購入ください。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 適宜必要な文献等も紹介していきます。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応したいと思いますので, まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： 講義の前後等にアポイントを取ってください。

留意事項： 本講はレポートを作成し, その内容をプレゼンしながら理解を深めていく輪読活動が必須となります。欠席が規定回数を超えると学則に基づき単位取得できませんので注意すること。

科目コード：73013 **科目ナンバリング：** **主な使用言語：**日本語
授業名(英文)：福祉分野に関する理論と支援の展開(Support Theory and Applications in Social Welf
担当者：望月 珠美

基本情報

年次： 1	単位数： 2	授業形式： 講義
曜時： 金曜2限		履修可能学科・専攻： GP GP
関連資格： 公認心理(院)		AL要素： 07 発表 10 資料調査課題 11 討論 14 輪読 17 発問と回答

授業の概要： 福祉分野にかかわる心理実践に関する理論と技術について学ぶことを通して, アセスメントを含む支援過程とその実際について理解することを目的とする。
講義では, 福祉臨床実践において求められる「人権尊重」「自立支援」「環境調整」「連携」の体現をめざすとともに, 「自身の知識・技術・価値観に対する研鑽の姿勢」を体得する。また, 児童、高齢者、障害児・者福祉の各領域における普遍的および今日的課題に焦点をあてるなかで, それぞれの領域における多職種多機関との連携の実際を学び, チーム福祉の一員として自らの専門性を活かし機能していく上で必要な知識、技術および倫理観の涵養を図る。

キーワード： 社会制度 福祉サービスシステム 子ども・家庭福祉 児童相談所 社会的養護 子育て支援 障害 高齢者支援 認知症 子どもの貧困 コミュニティ福祉 多職種連携

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: ・福祉分野に関わる心理職の実践の背景にある関連法および制度についての適切な理解
・福祉分野における心理業務の実際
・連携の重要性とその実際
・人権尊重と自立支援の重要性への理解

評価方法: 発表
課題への取り組み
期末レポート

評価割合: 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 講義で扱った内容について、学修や体験を通して得られた知見に基づいて科学的かつ環境調整の視点をもって考察するとともに倫理的観点からも望ましい形で自らの考えを表現することができる。

評価方法: 発表
課題への取り組み
期末レポート

評価割合: 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な数値に還元される評価対象としては扱わない。ただし、主体的な学修によって自身の知見に加味された成果等が学期末試験の記述内容に認められる場合には、「思考力・判断力・表現力」の豊かさ、的確さの対象として評価に加えることがある。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な数値に還元される評価対象としては扱わない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見が小レポートや期末試験等の記述内容により認められる場合には、「思考力・判断力・表現力」の豊かさ、的確さの対象として評価に加えることがある。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な数値に還元される評価対象としては扱わない。ただし、人権や多様な価値観に対する配慮を著しく欠く表現については減点の対象とし、「思考力・判断力・表現力」の評価に反映されるので十分に注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし。

評価割合: 特になし。

- 授業計画:**
- 1.福祉の概念と特徴
 - 2.今日の社会における福祉制度と法規
 - 3.児童家庭福祉をめぐる現状と課題
 - 4.児童家庭福祉領域における理職の実際
 - 5.障害者福祉をめぐる現状と課題
 - 6.障害者福祉領域における理職の実際
 - 7.高齢者福祉をめぐる現状と課題
 - 8.高齢者福祉領域における理職の実際
 - 9.多職種多機関との連携
 - 10.福祉分野における実践例ー児童虐待ー
 - 11.福祉分野における実践例ー高齢者介護ー
 - 12.福祉分野における実践例ー発達障害ー
 - 13.福祉分野における実践例ー子育て支援ー

- 14.福祉分野における実践例―司法と再犯防止―
- 15.まとめ
- 期末レポート

使用テキスト: 片岡玲子・米田弘枝編(2019)野島一彦監修,公認心理師分野別テキスト②福祉分野,理論と支援の展開,創元社.
中島健一編(2018)福祉心理学,公認心理師の基礎と実践 野島一彦・繁樹算男監修,遠見書房,2600円.

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: ・教科書および参考文献の詳読
・新聞に積極的に目を通し、社会の出来事や人々の暮らしに関心をもつ。

障がいのある履修者への対応: 個別のニーズに応じた多様な支援を行います。まずは授業担当者もしくは学務部にご相談ください。

授業時間外の連絡手段: 原則としてオフィスアワーに担当者研究室(大学6号館4階6415研究室)で対応します。オフィスアワーの詳細についてはUNIPAでご確認ください。緊急時は、学務部にご連絡ください。

留意事項: 特になし。

科目コード: 73014 **科目ナンバリング:** **主な使用言語:** 日本語
授業名(英文): 教育分野に関する理論と支援の展開(Support Theory and Applications in Educational
担当者: 青木 万里

基本情報

年次: 1	単位数: 2	授業形式: 講義
曜時: 金曜3限		履修可能学科・専攻: GP GP
関連資格: 公認心理(院)		AL要素: 07:発表 08:協同学修 10:資料調査課題 11:討論 14:輪読活動 17:発問と回答

授業の概要: 教育分野の制度と法規、課題と心理支援、多職種連携、事例検討などを通して公認心理師の業務について学ぶ。

なお科目担当者の公認心理師、臨床心理士としての実務経験を活かし、必要に応じて教育現場の事例を紹介・解説する。

キーワード: 公認心理師
チーム学校
理論と支援

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 授業で扱った事項について概ね80%理解したうえで、課題やレポートに知識を反映させることができる。

評価方法: 授業課題 (レポート) **評価割合:** 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法: 授業課題
(レポート)

評価割合: 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

授業で扱ったテーマに対して問題意識を持ち続け、自主的な学修によって考察を深めていくことが望ましいが、数量的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

授業での学びを教育現場において、児童生徒や保護者、教職員との関わりの中で活かせることが望ましいが、数量的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼公正性

レポートの執筆にあたり公正性に欠ける記述があった場合は、減点や注意の対象となる。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画:

- 【第01回】オリエンテーション
- 【第02回】公認心理師の成立と業務
- 【第03回】公認心理師の法的義務
- 【第04回】制度と法規
- 【第05回】幼稚園などでの課題と心理支援
- 【第06回】小学校での課題と心理支援
- 【第07回】中学校での課題と心理支援
- 【第08回】高校での課題と心理支援
- 【第09回】学生相談での課題と心理支援
- 【第10回】多職種連携
- 【第11回】教師への対応
- 【第12回】保護者への対応
- 【第13回】事例-1
- 【第14回】事例-2
- 【第15回】総括

使用テキスト: 公認心理師 分野別テキスト 3 教育分野 理論と支援の展開 増田健太郎編著 創元社

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 自主学修として、日頃より新聞やニュース、書籍などで取り上げられる教育問題に関心をもって、自分なりの考えをまとめておくこと。事例検討では主要な心理療法を理解し、具体的な支援方法を考えられるようにしておくこと。などをお勧めします。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: 初回の授業でお伝えします。

留意事項:

- 教育分野の諸問題に対し、受講生同士で活発な意見交換・発表などを求めます。
- 本講義の内容を深く理解するために、受講生の必要に応じて、授業計画に書かれた内容以外の事

項を扱うこともあります。その場合は、全体的な授業計画に変更が生じます。

科目コード: 73016	科目ナンバリング:	主な使用言語: 日本語
授業名(英文): 司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開(Support Theory and Applications in Foren		
担当者: 渡邊 彰一		
基本情報		
年次: 1	単位数: 2	授業形式: 講義
曜時: 水曜3限	履修可能学科・専攻: GP GP	
関連資格: 公認心理(院)	AL要素: 07.発表 11.討論 13.役割演技と疑似体 16.振り返り用紙と応答	

授業の概要: 【特例期間中の授業形態】課題研究型

本講においては、司法・矯正・犯罪分野における、非行・犯罪、犯罪被害及び家事事件についての基本的知識を踏まえた上で、様々な問題に対する必要な心理的支援について実践的研究を行います。非行・犯罪を犯した者について、具体的にイメージしやすいように各職域をとおして非行・犯罪に至る原因や心理分析、再非行・再犯のリスク評価、矯正・更生のための指導・助言、各処遇プログラムの提供等に関する研究を進めます。特に、事例研究や広報・報道資料等を通し、学修者自身の疑問や関心を踏まえた具体的な授業をめざし、対象者がどういったことが原因で事犯を引き起こしたのか、その背景にはどのようなことが考えられるのか、予後にはどのようなことが予測されるか。再犯を抑止するには(関係諸機関との連携等を含め)どういった手立てが必要であるのかなど、検討・検証を重ねていく場としたいと考えています。そのためにも学修者一人一人の自主的・主体的な研究・探究姿勢を求めます。学びを促進するために、授業担当者としての臨床(実務)経験を踏まえ、現場の実態に裏づけられた内容の授業を行い一層の理解を深めます。

キーワード: 非行・犯罪 矯正 リスクアセスメント 精神鑑定 社会内処遇と施設内処遇 修復的司法 精神疾患 DSM-5 ICD-10 サイコパシー

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 犯罪・司法領域における知見を深め定着させるとともに、得た知識を適切に応用、実践することができる。

評価方法: 定期試験

評価割合: 70%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業のテーマや授業で得た知識に関して、自らの関心や疑問に照合させつつ思考することができる。また、それらの関心や疑問を、言葉や文章等によって適切に表現でき、発展し解明できる。

評価方法: 定期試験

評価割合: 30%

レポート
コメントシート等

▼学修に主体的に取り組む態度

日々報道される様々な非行・犯罪についての関心を高め、その背景・要因等を分析・解析しようとする姿勢が求められる。毎回の授業終了時に取り組むコメントシート等において、自身の課題についての探求と気づきが記載される場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等がコメントシートや定期試験、レポート等の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

コメントシートや定期試験、レポートの記述等において、人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点の対象となることがある。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 第1回:オリエンテーション(講義の目的と評価方法)
第2回:司法・犯罪心理学を学ぶに当たって
第3回:司法・犯罪分野の概要 犯罪理論と歴史
第4回:司法・犯罪分野の概要 我が国の犯罪の諸特徴・動向
第5回:日本における刑事政策 成人犯罪(関係諸機関の役割等)
第6回:日本における刑事政策 少年非行(関係諸機関の役割等)
第7回:警察における心理学, 心理職
第8回:家庭裁判所(家庭裁判所の機能, 家庭裁判所調査官の役割)
第9回:家庭裁判所 事例研究(家事事件・少年事件)
第10回:矯正(少年矯正)
第11回:矯正(成人矯正)
第12回:矯正 事例研究(少年非行)
第13回:更生保護(更生保護と保護観察)
第14回:児童福祉(児童福祉, 児童相談所・児童福祉施設等心理職)
第15回:まとめ
定期試験
※上記授業計画に関して変更の可能性がある。

使用テキスト： 門本 泉(編著)2020「公認心理師の基本を学ぶテキスト⑱ 司法・犯罪心理学」ミネルヴァ書房 ※初回授業時まで購入のこと。

予習・復習のポイントと【予習】

参考文献・資料等： シラバスに記載されている各回のテーマについて、下記の参考文献等を用いて、疑問点を明らかにしたうえで授業に臨むことを推奨する。

【復習】

配布資料について復習するとともに、関連事項について下記文献等を用いて、各自学修を深めていくことが期待される。

参考文献：

「犯罪白書」法務総合研究所, 村瀬嘉代子(編)2015「臨床心理学 第15巻第4号 司法・矯正領域で働く心理職のスタンダード」金剛出版, 藤岡淳子(編)2019「犯罪・非行の心理学」有斐閣ブックス 「新しい少年院法と少年鑑別所法」法務省矯正局編, 「刑事施設関係法令集」法務省矯正局編(財 矯正協会), その他犯罪心理学関連のテキスト等
(入手, 購入等の困難な書籍に関しては関係頁の写しを配布します。)

参考事項：

可能な範囲, 非行・犯罪に関する面接・調査等を体験できるようロールプレイ等を取り入れます。積極的姿勢での参加を求めます。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： 対応の方法については、初回にお知らせします。

留意事項： 特になし

科目コード：73017

科目ナンバリング：

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：産業・労働分野に関する理論と支援の展開(Support Theory and Applications in Indus

担当者：津田 彰

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：木曜3限

履修可能学科・専攻：GP GP

関連資格：公認心理(院)

AL要素：グループワーク

プレゼンテーション

ディスカッション

実習

- 授業の概要：**
1. 職場におけるワークストレス問題(ワークライフバランス, キャリア形成に関することなども含む)に対して必要な心理に関する支援の研究と実践
 2. 組織における人の行動(持続可能なリーダーシップなど)の理論と健康な組織開発の実際

キーワード： 産業・組織分野の制度・法律・職種(労働基準法, 労働契約法, 労働安全衛生法, 過労死防止対策推進法, ハラスメントなど), 職場ストレス, ストレスチェック, EAP(従業員支援プログラム), 仕事と生活の調和(ワーク・ライフバランス), キャリア形成, ワーク・モチベーション, グループ・ダイナミクス(集団力学), 意思決定, 持続可能なリーダーシップ, パーソナリティ, 健康組織

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

- 到達目標：**
1. 職場における問題に対する必要な心理に関する支援の考え方と実践技法を修得する
 2. 組織における人の心理と行動に関する理論を学ぶ

評価方法： ストレスチェックの結果の分析と健康組織 評価割合：50%
開発に向けた処方箋レポートの作成

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 産業・組織分野における心理学的援助を行うための思考力・判断力・表現力を修得する

評価方法： 職場ストレスの予防とストレスマネジメントプログラム 評価割合：50%
プログラムの立案

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接の評価対象とはしないが, 組織の中で働く人の健康とwell-beingを高める支援者としての自覚を持つ
評価割合：0%

▼ 実践的ボランティア

ボランティア活動等の実践により深められた対人コミュニケーションのスキル等が実習場面やロールプレイで発揮できた場合は, 上記の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする

評価割合：0%

▼ 公正性

直接の評価対象とはしないが, 社会的倫理にもとる偏見や差別意識等から「自由」であり続けようとする姿

勢・態度を一貫して示す

評価割合:0%

▼その他

特になし

評価割合:特になし

- 授業計画: 第1回:産業・組織心理学とは何か(授業概要の説明を含む)
第2回:産業・組織分野の制度・法律・職種
第3回:産業・組織分野での活動の倫理(個人情報と守秘義務)
第4回:仕事へのモチベーションとウェルビーイング, キャリア形成
第5回:ワーク・エンゲイジメントとワーク・ライフバランス
第6回:産業・組織分野における心理学的アセスメントの理論
第7回:産業・組織分野における心理学的アセスメントの実際
第8回:産業・組織分野における心理学的アセスメントの研究と実践の包括ケア
第9回:産業・組織分野における心理学的援助(産業カウンセリング)
第10回:産業・組織分野における心理学的援助(EAP, 従業員支援プログラム)
第11回:産業・組織分野における心理学的援助(復職支援プログラム)
第12回:組織集団のダイナミクスとコミュニケーション
第13回:持続可能なリーダーシップの適性とスキル
第14回:組織構成員の心理と行動
第15回:まとめ

使用テキスト: なし

授業で使用する資料はすべて印刷・配布する

- 予習・復習のポイントと参考文献・資料等:
・授業前には, その回のテーマの分からない用語を調べる(60分)
・授業後には, 配布資料について復習するとともに, 資料にない関連事項について自主学修を通じて知見を深めることが望ましい(60分)
・参考書として, 次の2点を推薦する
『産業・組織心理学を学ぶ』金井篤子編, 北大路書房, 2,400円+税
『公認心理師完全合格問題集2020年版』公認心理師試験対策研究会著, 翔泳社, 2,800円+税

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので, まずは学務部等に連絡してください

授業時間外の連絡手段: 初回に連絡手段などお伝えします

留意事項: 公認心理師の受験を目指す学生を特に歓迎します

科目コード:73018	科目ナンバリング:	主な使用言語:日本語
授業名(英文): 心理学的アセスメントに関する理論と実践(Theory and Practice of Psychological Assess)		
担当者: 岩崎 真和		
基本情報		
年次:1	単位数:2	授業形式:講義
曜時:木曜4限	履修可能学科・専攻: GP GP	
関連資格:公認心理(院)	AL要素: 14:輪読活動 16:振り返り用紙と応答 18:その他	

授業の概要: 【特例期間中の講義形態】課題研究型(UNIPA掲示を活用)

心理アセスメントとは, 生育歴や行動観察, 心理検査の結果などの幅広い情報を収集し, それらを統合して包括的に解釈していく作業であり, その基盤としてバイオ・サイコ・ソーシャルな総合的視座からの理解が必須となる。講義の中では, テキストの輪読や担当教員の保健

医療，教育，司法臨床での実務経験を踏まえつつ，多領域での公認心理師の心理アセスメントとその意義について実践的に学ぶ。

[授業の目的・ねらい]

- ・心理的アセスメントの目的と倫理
- ・心理的アセスメントの観点と展開
- ・心理的アセスメントの理論と方法
- ・適切な記録と報告(フィードバック・セッション:心理に関する相談，助言，指導等)

[授業修了時の達成課題(到達目標)]

- ・心理的アセスメントに有用な情報とその把握のための手法を理解する。
- ・要心理的支援者への関与しながらの観察について理解する。
- ・心理検査の種類と成り立ち，特徴，意義及び限界について理解する
- ・心理検査の適応と実施方法を理解し，検査結果を読めるようになる。
- ・生育歴などの情報や行動観察，心理検査の結果などを統合できる視点を持つ。
- ・心理アセスメント所見の適切な記録の仕方，報告，振り返り，管理の仕方を理解する。

キーワード： 心理検査，心理アセスメント，多職種協働など

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 講義内容について，概ね8割の事項を暗記し，レポート作成することができる。

評価方法： 期末レポート

評価割合： 80%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 講義内容について，自主的な学びで得た知見や経験も踏まえて考察し，論理的かつ簡潔に論じることができる。

評価方法： リアクションペーパー

評価割合： 20%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしないが，自主的な学びや経験が期末レポートの記述内容に認められる場合は，上記の項目の評価に含めることがある。

評価割合： 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしないが，講義内の発言や期末レポートの記述等において著しく公正性を欠く言動や不適切な引用等の不正行為があった場合は，減点や注意の対象となるので留意すること。

評価割合： 0%

▼ その他

特になし。

評価割合： 特になし。

授業計画：

- 01 オリエンテーション
- 02 心理的アセスメントの意義と基本姿勢
- 03 心理的アセスメントに関する理論と方法
- 04 知能検査
- 05 神経心理学的検査
- 06 投影法
- 07 質問紙法
- 08 心理検査の適用とテスト・バッテリー
- 09 アセスメントで得られた情報の包括的理解

- 10 ケース・フォーミュレーション
- 11 保健医療分野における心理アセスメント
- 12 教育と福祉分野における心理アセスメント
- 13 司法・犯罪分野における心理アセスメント
- 14 産業・労働分野における心理アセスメント
- 15 総括

使用テキスト: 津川律子(2020). 改訂増補 精神科臨床における心理アセスメント入門 金剛出版
 ※上記テキストが必須となりますので、入学後すぐに本学生協で購入してください。なお、本テキストは公認心理師試験においても十分に活用可能です。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: テキスト以外に必要な資料等は随時配布または紹介していきます。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応したいと思っておりますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: 講義の前後等にアポイントを取ってください。

留意事項: 授業計画の内容や順番については、受講生のニーズに応じて変更可能性があります。本科目では輪読活動や必要に応じた受検体験を柱に展開しますので、毎回テキストを予習して、必要な資料を作成することが必須です。

科目コード: 73019 **科目ナンバリング:** **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 心理支援に関する理論と実践(Theory and Practice of Psychological Support)

担当者: 櫻井 由美子

基本情報

年次: 1	単位数: 2	授業形式: 講義
曜時: 火曜2限	履修可能学科・専攻: GP GP	
関連資格: 公認心理(院)	AL要素: 07.発表 11.討論 15.レポート指導 16.振り返り	

授業の概要: 本授業では、公認心理師の主要な業務である心理的支援について、クライアント中心療法、力動論、行動論・認知論、その他の心理療法の理論とそれぞれの方法について、実践的観点に基づき学ぶ。具体的には、各心理療法の理論・方法とそれらの相談・助言・指導への応用について学んだうえで、保健医療、福祉、教育、司法、産業の各領域における心理療法の選択・調整について理解を深める。到達目標は以下のとおりである。

- ①クライアント中心療法の理論と方法を理解する
- ②力動論に基づく心理療法の理論と方法を理解する
- ③行動論・認知論に基づく心理療法の理論と方法を理解する
- ④その他の心理療法の理論と方法を理解する
- ⑤心理に関する相談、助言、指導等への上記①から③までの応用について理解する
- ⑥心理に関する支援を要する者の特性や状況に応じた適切な支援方法を選択・調整する力を養う

キーワード: 心理的支援 心理療法 理論 方法 応用

学位授与方針との関係

▼ **知識・技能**

到達目標: 各種心理療法に関する理論と方法について理解し、適切に活用することができる。

評価方法: 小レポート **評価割合:** 50%
 期末レポート

▼ **思考力・判断力・表現力**

到達目標: 各種心理療法の理論と方法に関する自らの関心や課題について思考し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法: 小レポート
期末レポート

評価割合: 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、レポートやグループ・ディスカッションにおいて、自身の探求と気づきが主体的・意欲的に表現される場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、レポートやグループディスカッションにおいて、利他的言動が認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼公正性

授業中の発言やレポートの記述等において、人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や嚴重注意の対象となることがあるので注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

- 授業計画:**
- 第1回: 心理療法の理論的・方法論的概要
 - 第2回: クライアント中心療法の理論と方法
 - 第3回: 力動論に基づく心理療法の理論と方法
 - 第4回: 行動論・認知論に基づく心理療法の理論と方法
 - 第5回: その他の心理療法の理論と方法(1) 家族療法の理論と方法
 - 第6回: その他の心理療法の理論と方法(2) 集団心理療法の理論と方法
 - 第7回: 心理に関する相談、助言、指導等へのクライアント中心療法の応用
 - 第8回: 心理に関する相談、助言、指導等への力動論に基づく心理療法の応用
 - 第9回: 心理に関する相談、助言、指導等への行動論・認知論に基づく心理療法の応用
 - 第10回: 心理に関する相談、助言、指導等へのその他の心理療法の応用
 - 第11回: 心理に関する支援を要する者の特性や状況に応じた適切な支援方法の選択・調整
 - (1) 保健医療領域における心理支援
 - 第12回: 心理に関する支援を要する者の特性や状況に応じた適切な支援方法の選択・調整
 - (2) 福祉領域における心理支援
 - 第13回: 心理に関する支援を要する者の特性や状況に応じた適切な支援方法の選択・調整
 - (3) 教育領域における心理支援
 - 第14回: 心理に関する支援を要する者の特性や状況に応じた適切な支援方法の選択・調整
 - (4) 司法領域における心理支援
 - 第15回: 心理に関する支援を要する者の特性や状況に応じた適切な支援方法の選択・調整
 - (5) 産業領域における心理支援

使用テキスト: 授業に必要な資料は、すべて配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 予習としては、学部の学びにおいて使用したテキストや作成したノートを題材として、各種心理療法について復習しておくことが期待されます。復習としては、授業で得た理解と気づきを各自ノートにまとめておき、それらをもとに、期末レポートに取り組むことを勧めます。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段: 連絡方法については初回にお知らせします。

留意事項: 受講生の関心に即して、講義の順に変更を加える可能性があります。

科目コード:73021 科目ナンバリング: 主な使用言語:日本語
授業名(英文): 家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理(Support Theory and Practice
担当者: 黒澤 泰、坂本 一真

基本情報

年次:1 単位数:2 授業形式:講義
曜時:水曜5限 履修可能学科・専攻: GP GP
関連資格: 公認心理(院) AL要素: 03 実験・実技・体験 07 発表
10 資料調査課題
17. 発問と回答

授業の概要: 【茨城版コロナNext Ver. 4 Stage 4以上の場合】緊急事態宣言/ステージ4の間は同時双方向型の遠隔授業。

心理的支援を必要とするクライアントはクライアント個人として存在するわけではなく、家族や職場など取り巻く環境の影響を受けている。本授業は、(1)システムとしての家族/集団を理解する、(2)個人と家族/集団との相互影響関係を理解する、(3)システムズアプローチ/コミュニティアプローチについて理解する、の3点を講義と演習を組合せながら学ぶことを目的とする。授業の前半では、システムズアプローチ(家族関係等集団の関係性に焦点を当てた心理支援の理論と方法)、授業の後半ではコミュニティアプローチ(地域社会や集団・組織に働きかける心理学的援助に関する理論と方法)に焦点を当て、それらを心理に関する相談、助言、指導等への応用を試みる。なお、この授業科目は、「家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践」という名称である。

キーワード: 家族、家族システム、システムズアプローチ、コミュニティアプローチ

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 社会心理学・家族心理学・臨床心理学の知識や技能は演習の前提であり、直接的な評価対象とはしない。

評価方法: 特になし

評価割合: 0%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業内で記した基準の概ね80%を踏まえ、臨床心理学の領域について、自主学修や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの見解や経験をふまえて発表することができる。

評価方法: 発表

評価割合: 100%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、学修に主体的に取り組む姿勢は、大学院生としての基本であり、主体的に取り組む態度が見られない場合(e.g. 指定された章を読んでこない、参考資料を自分で調べてこない)は、嚴重注意の対象になる。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、実践的ボランティア:主体的な学びへの関与は、大学院生としての基本であり、実践的ボランティアが見られない場合(e.g. グループワークやプレゼンテーションへの消極的態度)は、嚴重注意の対象になる。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象としない。しかし、他者尊重や臨床心理学的な支援を必要とする人の人権への配慮などの公正性は、心理職が持つべき規範であり、公正性に反する言動は注意の対象となる。

評価割合：0%

▼その他

授業内では模擬事例を用いる場合がある。模擬事例ではあるが、個人情報の取り扱いは注意すること。

評価割合：授業内では模擬事例を用いる場合

- 授業計画：
- 第一回：オリエンテーション：
 - 第二回：家族とは
 - 第三回：システムとしての家族：開放性と閉鎖性/階層性/境界
 - 第四回：家族療法(1)歴史
 - 第五回：家族療法(2)構造
 - 第六回：家族療法(3)コミュニケーション
 - 第七回：ロールプレイング
 - 第八回：模擬事例
 - 第九回：模擬事例についての振り返り
 - 第十回：家族アセスメント
 - 第十一回：コミュニティアプローチの理念と目標
 - 第十二回：コミュニティアプローチの方法論
 - 第十三回：コミュニティアプローチの実際
 - 第十四回：グループアプローチ
 - 第十五回：まとめ

使用テキスト： 公認心理師 実践ガイダンス 3.家族関係・集団・地域社会（公認心理師実践ガイダンス）（税抜 2750円）

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 学部に関連科目（心理学、臨床心理学、社会心理学、心理療法、家族心理学、産業・組織心理学）を復習しておくこと。関連科目を学部で履修していない場合、自主的な学習が必要となることは留意すること。

【参考文献】

・日本家族心理学会 編. 家族心理学ハンドブック. 金子書房 (6500円+税)

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応するので、まずは学務部と担当教員に相談すること。

授業時間外の連絡手段： メール対応を基本とする。担当教員のメールアドレスは初回の授業で告知する。

留意事項： 興味を持ったこと、気になることを自身でも積極的に調べ、その内容を授業内で積極的に報告することを求める。"Wisdom begins in wonder" Socrates

科目コード：73022

科目ナンバリング：

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：心の健康教育に関する理論と実践(Theory and Practice for Mental Health Education)

担当者：渡邊 孝憲

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：火曜3限

履修可能学科・専攻：GP GP

関連資格：公認心理(院)

AL要素：07発表

10資料調査課題

11討論

15レポート指導

17発問と回答

授業の概要: 【授業形態ガイドライン・レベルⅢ】同時双方向型・【授業形態ガイドライン・レベルⅡ】面接授業

〈目的〉現代は心の健康を阻害する要因に満ちている。この授業では、支援を要する者に関わり、健康な社会を推進しようとする公認心理師が心の健康とは何かを深く考え、具体的な問題への対処の方法を理解し、実践の準備ができるようになることを目指す。

〈概要〉だが、そもそも「心の健康」とは何なのか。授業ではまずこれについて諸定義やこれまでどのような心理学的研究があるのかを概観し、検討する。さらに、公認心理師5分野における心の健康を増進するための一般的な方法について学び、授業参加者の関心に沿ったそれぞれの分野の実践について調べ、報告、討論を通して理解を深める。

キーワード: 心の健康・不健康 心理教育 5分野における心の健康教育

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

- 到達目標:** ①心の健康とは何かについて心理学的な考え方がもてる。
②健康な心とは何かに関する理論の代表として、エリクソン, E.Hとロジャーズ, C.R.の説を理解する。
③保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の各分野における「心の健康教育」に関する考え方や興味のある実践について知識を深める。

評価方法: レポートその他の提出物、および普段の授業態度による **評価割合: 50%**

▼ 思考力・判断力・表現力

- 到達目標:** ①心の健康とは何かについて深く考えそれを他者に伝えることができる。
②エリクソンやロジャーズが述べていることを我々の日常生活や諸問題にひきつけて考えることができる。
③公認心理師5分野における「心の健康教育」の在り方の問題点を明確にできる。

評価方法: レポートその他の提出物、および普段の授業態度による **評価割合: 40%**

▼ 学修に主体的に取り組む態度

授業で取り上げたことに関して自ら進んで学習し深めたり広めたりしていることが特に認められる場合に評価する。

評価割合: 10%

▼ 実践的ボランティア

特に評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼ 公正性

さまざまな支援を要する者等に対して、社会的倫理にもとる人権侵害、偏見、臆見、差別的意識等が見られ、それを修正しようとする姿勢が見られない場合には厳しく注意し、それでも改善されない場合には減点する。

評価割合: 0%

▼ その他

特になし。

評価割合: 特になし。

授業計画: 第1回:心の健康・心の健康教育とはどういうものか
第2回:心の健康に関するこれまでの心理学的研究(1) エリクソン, E.H.の健康な自我発達の理論(1) 基本的な考え方および学童期までの発達
第3回:心の健康に関するこれまでの心理学的研究(2) エリクソン, E.H.の健康な自我発達の理論(2) 青年期以降の発達
第4回:心の健康に関するこれまでの心理学的研究(3) ロジャーズ, C.R.の「十分に機能する

人間]についての理論(1) 来談者中心療法の目指すもの
第5回:心の健康に関するこれまでの心理学的研究(3) ロジャーズ,C.Rの「十分に機能する人間]についての理論(2) 「十分に機能する人間」とは
第6回:心の健康教育と心理教育
以下の5回は、それぞれ講義のあと、参加者の関心ある実践について調べ発表しそれについて質疑応答をする形で進める。
第7回:心の健康教育の考え方(1) 保健医療分野
第8回:心の健康教育の考え方(2) 福祉分野
第9回:心の健康教育の考え方(3) 教育分野
第10回:心の健康教育の考え方(4) 司法・犯罪分野
第11回:心の健康教育の考え方(5) 産業・労働分野
第12回:心の健康教育の考え方(6) 5分野のまとめ 共通点とそれぞれの分野に独自の点
第13回:「心の健康教育」の批判的検討
第14回:「心の健康」の教育は可能か
第15回:まとめ 各自の「心の健康及び健康教育」観を発表・検討する。

使用テキスト: 特に指定しない、必要な資料は適宜配布し、文献も紹介する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: (復習90分)授業で取り上げたことに関する関連文献等を渉猟して知見を広め、それに基づいて自らの考えを深めることを自主的に行うべきである。参加者には発表が課せられるので従軍に時間をかけて準備することが求められる。

障がいのある履修者への対応: できる限りの対応をします。

授業時間外の連絡手段: 最初の授業時に決めましょう。

留意事項: 特にありません。

科目コード: 73025 **科目ナンバリング:** **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 心理実践課題研究III a(Thesis Writing in Psychology III a)

担当者: 岩崎 真和

基本情報

年次: 2

単位数: 2

授業形式: 演習

曜時: 火曜2限

履修可能学科・専攻: GP GP

関連資格:

AL要素: 07:発表

11:討論

15:レポート指導

授業の概要: M1時の学びをベースに、科学者-実践家モデルの観点から、修士論文の作成に取り組みます。個別の指導も適宜行います。担当教員の臨床における実務経験も共有しながら、学びを深めていきます。とりわけ前期は、学内倫理審査に向けた取り組みと、研究データの取得が大きな課題となります。

キーワード: 自身のケースや課題に応じて自ら設定していくこと。

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 自らの設定したテーマに関し、臨床心理学的視点から思考し、研究を進めることができる。

評価方法: 学期末レポート

評価割合: 80%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 自らが研究したテーマに関する知見や自己の体験を踏まえて考察し、論理的に表現することが

できる。

評価方法: 発表とリアクションペーパー

評価割合: 20%

▼学修に主体的に取り組む態度

主体的態度がみられた場合に考慮する。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしないが、研究を進める過程や背景においてボランティア活動等の実践により深められた知見が認められる場合には、「思考力、判断力、表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。著しく公正性を欠く言動等があった場合には、大幅な減点や注意の対象とするので留意すること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし。

評価割合: 特になし。

- 授業計画:**
- 第01回 オリエンテーション
 - 第02回 研究の進捗報告と分析手法の設定(1)
 - 第03回 研究の進捗報告と分析手法の設定(2)
 - 第04回 研究の進捗報告と分析手法の設定(3)
 - 第05回 研究の進捗報告と分析手法の設定(4)
 - 第06回 研究の進捗報告と分析手法の設定(5)
 - 第07回 研究の進捗報告と分析手法の設定(6)
 - 第08回 研究の発表とフィードバック(1)
 - 第09回 研究の発表とフィードバック(2)
 - 第10回 研究の発表とフィードバック(3)
 - 第11回 研究の発表とフィードバック(4)
 - 第12回 研究の発表とフィードバック(5)
 - 第13回 プレゼンテーション(1)
 - 第14回 プレゼンテーション(2)
 - 第15回 総括

使用テキスト: 参考図書については随時紹介します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 日頃から主体的に学び続ける習慣をつけること。加えて、心理臨床実践に取り組む際には自身の働きかけについて常に振り返り、向上させていくための学びを継続すること。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応したいと考えているので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに対応します。

留意事項: 履修登録の前に事前相談の時間を取りたいと思いますので、必ずご連絡ください。

科目コード: 73025

科目ナンバリング:

主な使用言語: 日本語

授業名(英文): 心理実践課題研究III c(Thesis Writing in Psychology III c)

担当者: 櫻井 由美子

基本情報

年次: 2

単位数: 2

授業形式: 演習

曜時: 月曜2限

履修可能学科・専攻: GP GP

関連資格：

AL要素：7. 発表

10. 資料調査課題

15. レポート指導

授業の概要：【特例期間中の授業形態】課題研究型

ケース研究論文作成の進め方について学ぶ。

キーワード：心理学 研究 データ収集 調査 分析

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標：研究を遂行するための知識と技術を身につけている。

評価方法：レポート

評価割合：20%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標：研究課題を明確にしたうえで、その課題を明らかにする方法を論理的に選択し遂行することができる。さらに、得られた知見をベースに、論理的に論文を完成させることができる。

評価方法：期末レポート

評価割合：80%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、完成に至るまでの取り組みにおける主体性・積極性を、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、研究課題の着想や考察の着眼点において、社会貢献の観点が含まれる場合には、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼ 公正性

研究の着想や論点において、著しく公正性を欠く記述があった場合には、減点の対象となることがあるので注意すること。

評価割合：0%

▼ その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：【前期】

- 第1回：研究課題の概観
- 第2回：研究方法の概観
- 第3回：分析方法の概観
- 第4回：研究倫理の確認
- 第5回：研究倫理の検討
- 第6回：事例研究の方法(1)インタビュー
- 第7回：事例研究の方法(2)フィールドワーク
- 第8回：事例研究の実際(1)インタビュー事例の検討
- 第9回：事例研究の実際(2)フィールドワーク事例の検討
- 第10回：事例研究の実際(3) 関心領域の事例の検討
- 第11回：事例研究の試行(1)プランニングの概観
- 第12回：事例研究の試行(2)研究倫理
- 第13回：事例研究の試行(3)データ収集法
- 第14回：事例研究の試行(4)分析方法
- 第15回：事例研究の試行(5)プランニングの完成

使用テキスト： 必要な資料を随時配布します。

予習・復習のポイントと 研究を進めるうえでの各自の課題を常に把握し明確にしておくこと。行き詰まりを感じたとき
参考文献・資料等： には、随時相談してください。

障がいのある 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： 連絡方法については初回にお知らせします。

留意事項： 特になし

科目コード：73026 科目ナンバリング： 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：心理実践課題研究IV a(Thesis Writing in Psychology IV a)

担当者：岩崎 真和

基本情報

年次：2

単位数：2

授業形式：演習

曜時：火曜2限

履修可能学科・専攻：GP GP

関連資格：

AL要素：07:発表

11:討論

15:レポート指導

授業の概要： 1月上旬提出予定の修士論文の完成を第一に、主に個別指導を軸として展開します。

キーワード： 自身のケースや課題に応じて自ら設定していくこと。

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 自らの設定したテーマに関し、臨床心理学的視点から思考し、研究を進めることができる。

評価方法： 修士論文

評価割合：80%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 自らが研究したテーマに関する知見や自己の体験を踏まえて考察し、論理的に表現することができる。

評価方法： 発表とリアクションペーパー

評価割合：20%

▼学修に主体的に取り組む態度

主体的態度がみられた場合に考慮する。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしないが、研究を進める過程や背景においてボランティア活動等の実践により深められた知見が認められる場合には、「思考力、判断力、表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。著しく公正性を欠く言動等があった場合には、大幅な減点や注意の対象とするので留意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画： 毎週、修士論文の完成に向けて進捗を確認しながら、適宜必要な指導を行っていきます。節や段落ごとに書いて、出来たらteams等でお知らせください。

使用テキスト： 参考図書については随時紹介します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 日頃から主体的に学び続ける習慣をつけること。加えて、心理臨床実践に取り組む際には自身の働きかけについて常に振り返り、向上させていくための学びを継続すること。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応したいと考えているので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに対応します。

留意事項： 履修登録の前に事前相談の時間を取りたいと思いますので、必ずご連絡ください。

科目コード：73026 科目ナンバリング： 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：心理実践課題研究IV c(Thesis Writing in Psychology IV c)

担当者：櫻井 由美子

基本情報

年次：2

単位数：2

授業形式：演習

曜時：月曜2限

履修可能学科・専攻：GP GP

関連資格：

AL要素：7. 発表

10. 資料調査課題

15. レポート指導

授業の概要： ケース研究論文作成の進め方について学ぶ。

キーワード： 心理学 研究 データ収集 調査 分析

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 研究を遂行するための知識と技術を身につけている。

評価方法： レポート

評価割合：20%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 研究課題を明確にしたうえで、その課題を明らかにする方法を論理的に選択し遂行することができる。さらに、得られた知見をベースに、論理的に論文を完成させることができる。

評価方法： 期末レポート

評価割合：80%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、完成に至るまでの取り組みにおける主体性・積極性を、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、研究課題の着想や考察の着眼点において、社会貢献の観点が含まれる場合には、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

研究の着想や論点において、著しく公正性を欠く記述があった場合には、減点の対象となることがあるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 第1回：事例研究の試行(1)プランの確認
第2回：事例研究の試行(2)データ収集の準備
第3回：事例研究の試行(3)データの収集
第4回：事例研究の試行(4)データの整理
第5回：事例研究の試行(5)分析方法の確認
第6回：事例研究の試行(6)データの分析
第7回：事例研究の試行(7)分析結果の整理
第8回：事例研究の試行(8)分析結果の考察
第9回：事例研究の試行(9)研究結果のテキスト化
第10回：事例研究の試行(10)研究発表の方法
第11回：事例研究の試行(11)研究発表
第12回：事例研究の試行(12)研究結果の振り返り
第13回：事例研究の試行(13)課題と今後の展望
第14回：ケース研究論文の進め方
第15回：ケース研究論文の研究計画

使用テキスト： 必要な資料を随時配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 研究を進めるうえでの各自の課題を常に把握し明確にしておくこと。行き詰まりを感じたときには、随時相談してください。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： 連絡方法については初回にお知らせします。

留意事項： 特になし

科目コード：73029 科目ナンバリング： 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：心理実践実習Ⅲ(Advanced Practical Training in Psychology Ⅲ)

担当者：青木 万里、望月 珠美、櫻井 由美子、岩崎 眞和

基本情報

年次：2

単位数：5

授業形式：実習

曜時：前期(実習)、後期(実習)

履修可能学科・専攻：GP GP

関連資格：公認心理(院)

AL要素： 01 実地訓練
02 模擬実践
03 実験・実技・体験
04 課題解決
07 発表
08 協同学修
09 実地調査
10 資料調査課題
15 レポート指導
16 振り返り用紙と応答
17 発問と回答

授業の概要：【授業形態ガイドライン・レベルⅢ、レベルⅡ】遠隔授業(同時双方向型)もしくは課題研究型

M1時の学びを基盤としながら、主として医療、教育、福祉分野等での実習体験を通じて心

理臨床の専門家として支援活動に従事する上で必要な知識と技能の涵養を図る。実習には、事前事後学習、講義・見学、実習先におけるケース担当等による支援体験、カンファレンスを含む。これらの学びを通して、bio-psycho-socialの視点からアセスメントと支援、心理専門職としての職責とチームアプローチ、多職種連携及び地域連携による支援実践の実際について理解を深める。複数名の教員がそれぞれの専門領域に即して、随時実習指導を行い、必要に応じて講義とカンファレンスを行う。

キーワード： コミュニケーション、心理検査、心理面接、地域支援、支援を要する者等の理解とニーズの把握、支援計画、チームアプローチ、多職種連携、地域連携、職業倫理、法的義務

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 学内外における施設機関での実習を通して、以下の点について理解することができる。

- ・実習先施設機関の設置理念や沿革、特徴の理解
- ・実習先施設機関における心理に関する支援を要する者とのコミュニケーションの方法
- ・各分野領域において用いられる主要な心理検査に関する理論的背景と実施方法の理解
- ・面接技法
- ・心理に関する支援を要する者のニーズに基づいた支援計画の作成
- ・地域支援に関する考え方の理解と実践方法の理解
- ・多職種多機関とのチームアプローチや地域連携の持ち方の理解
- ・公認心理師としての職業倫理と法的義務の体現

評価方法： 実習機関における実習担当指導者による **評価割合：40%**
評価

実習ノートの内容

授業への参加態度

レポート

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 求められる知識・技能として掲げられているそれぞれの内容に関して、自らの到達度と課題について主体的に考えることができる。また、要支援者との関わりの適切性について内省するとともに客観的に判断できる。その上で、自らが感じていることを適切に表現することができる。

評価方法： 実習機関における実習担当指導者による **評価割合：15%**
評価

実習ノートの内容

授業への参加態度

レポート

▼ 学修に主体的に取り組む態度

求められる知識・技能において挙げた各項目に関して積極的な関心を持ち、自ら問題を見出し、主体的に精査、検討するとともに、仲間や学内外指導者との積極的な協働や議論を通して公認心理師としての在り方や要支援者との関係性の構築を図ることに積極的に臨む態度を重視する。

評価割合：15%

▼ 実践的ボランティア

対人支援的な仕事にはボランティアの精神・態度が不可欠である。しかし、それは独りよがりなものであってはならない。あくまでも支援を必要とする者が自らの責任で生きることができるよう奉仕するものであることを忘れてはならない。そのためには常に自分の働きや動きを広い視野から検討、内省しながら活動することが必要である。その迷いを通して成長しようとする姿勢を重視する。

評価割合：15%

▼公正性

支援を要する人たちに公正で在ろうとすることを意識化することが重要である。様々な歴史や過去、多様な価値観や課題をもつ要支援者に対して先入観や偏見、差別の意識なく接することは非常に困難であることを自覚し、自分の奥深くに潜む偏見、臆見、欺瞞、誤謬、差別意識に対して常に厳しく向き合おうとする態度を重視する。

評価割合：15%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 講義、カンファレンス等を含め、およそ200時間以上の実習を行う。講義とカンファレンスは、実習先の受け入れ状況に応じながら適宜実施する。また学内施設であるカウンセリング子育て支援センターに加えて、先述の各領域において応用実践的実習を行う。これらの実習については、授業配置時間外となることがある。
講義では、心理実践実習ⅠとⅡでの学びを土台として、さらなる実習に臨む上での事前および事後学習の一環として次の内容について理解を深める。

- 第1回 保健医療施設機関での実習(1)：事前指導, 実習, 事後指導
- 第2回 保健医療施設機関での実習(2)：事前指導, 実習, 事後指導
- 第3回 保健医療施設機関での実習(3)：事前指導, 実習, 事後指導
- 第4回 保健医療施設機関での実習(4)：事前指導, 実習, 事後指導
- 第5回 教育施設機関における個別的支援展開の理解(1)：事前指導, 実習, 事後指導
- 第6回 教育施設機関における個別的支援展開の理解(2)：事前指導, 実習, 事後指導
- 第7回 教育施設機関における個別的支援展開の理解(3)：事前指導, 実習, 事後指導
- 第8回 教育施設機関における個別的支援展開の理解(4)：事前指導, 実習, 事後指導
- 第9回 福祉施設機関における個別的支援展開の理解(1)：事前指導, 実習, 事後指導
- 第10回 福祉施設機関における個別的支援展開の理解(2)：事前指導, 実習, 事後指導
- 第11回 福祉施設機関における個別的支援展開の理解(3)：事前指導, 実習, 事後指導
- 第12回 福祉施設機関における個別的支援展開の理解(4)：事前指導, 実習, 事後指導
- 第13回 ケース・カンファレンス(1)
- 第14回 ケース・カンファレンス(2)
- 第15回 まとめと心理実践実習振り返り

学内外における施設機関において行われる実習では、実習指導者等の指導を受けながら以下に示す応用実践実習を行う。

- ・コミュニケーションに関する実習
- ・心理査定・心理検査に関する実習
- ・心理面接等の心理支援に関する実習
- ・地域支援に関する実習

実習先は、いずれも茨城県中央から北部地域に位置する施設機関となる予定である。ただし、実習実施時期や実習先施設機関の事情により変更になることがある。一部の实習については、実習担当教員が引率指導を行う。

使用テキスト： 特になし

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： ・これまでに学んだ関連知識および技術との積極的な関連づけを図ること
・要支援者の理解にあたっては、それぞれの実習分野および設置目的に照らし合わせて関連文献等にあたる自学自習を行うこと
・実習先が確定した際には、そのフィールドの理解への深めるとともに担当が予想されるクライアントの疾患や課題の理解に努め、積極的に関わられる準備状態を整えること

障がいのある履修者への対応： 個別の特性とニーズに応じた支援を行う。授業担当者もしくは学務部に相談すること。

授業時間外の連絡手段： 原則としてオフィスアワーに担当者研究室で対応する。各担当者のオフィスアワーの詳細についてはUNIPAで確認する。緊急時は、学務部に連絡しteams等を介して担当教員と緊密な連携体制をとること。

留意事項：

- ・シラバスに示された時間数は目安であり、実際にはこれらの時間数を超えることがある。
- ・受講は心理学専攻の学生に限る。また学部教育の段階において公認心理師国家試験受験資格要件として求められている指定科目全25科目を修得済みの者のみ履修を可とする。
- ・心理実践実習Ⅰ・Ⅱを修得済みであること。
- ・履修にあたっては、心理学専攻履修ガイダンスを必ず受けること。
- ・受講該当年度当初における健康診断を必ず受診すること。
- ・健康状態やそれを証明する書類に不備不足等がある場合には、実習に参加できないことがある。
- ・コロナ禍での実習授業が継続するため、実習内容、スケジュール、実習先等が社会情勢に応じて変化することが予想される。これらを鑑み、常にそうした変化に対応できるような準備を取り、担当教員と協議しながら進めていくこと。

科目コード：73030 **科目ナンバリング：** **主な使用言語：日本語**

授業名(英文)：生活科学研究法(Research Methods in Human Life Science)

担当者：黒澤 泰

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：火曜2限

履修可能学科・専攻：GP GP

関連資格：

AL要素： 05 即時応答，
10 資料調査課題，
15 レポート指導
16 振り返り用紙と応答

授業の概要：【茨城版コロナNext Ver. 4 Stage 4以上の場合】遠隔授業(同時双方向型)：緊急事態宣言/非常事態宣言中は同時双方向型・課題研究型。

心理学界では研究不正や疑わしい研究実践(QRP)に関する大きな問題が次々と発覚している。そして、そういったやり方で得られたとされる研究結果が追試で再現できないことも報告されている。つまり、心理学の知見には証拠の乏しい再現不可能なものが多く存在することが懸念されている。

本講では、事前登録制度(pre-registration:プレレジ)の考え方を元に、問題、方法、仮説から構成される研究計画の作成と対応した倫理審査申請書の提出を最終目標とし、座学と作業を通して研究法について発展的に学習する。

キーワード： 実証科学、ウェブ調査、事前登録(プレレジ)、多変量解析、論文購読

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 心理学研究法Iや心理学統計法で学んだ専門用語を用い、研究計画立案の際、表現すること。

評価方法： 最終課題(研究計画)

評価割合： 40%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 立案した研究計画を倫理審査申請書という形で表現できるようになること

評価方法： 最終課題(倫理審査申請書)

評価割合： 40%

▼学修に主体的に取り組む態度

研究計画の立案、および、倫理審査申請書の作成に対し、自分で考え、自分で論文を探し、自分で考える等の主体的に取り組む態度が必要とされる。

評価割合： 20%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしないが、剽窃などの研究不正行為は減点の対象となる。

評価割合：0%

▼その他

履修を希望する学生は、授業に先立ち、Google アカウントを作成しておくこと。

評価割合：履修を希望する学生は、授業に先

- 授業計画：
1. オリエンテーション
 2. 論文の読み方
 3. 相関
 4. 因子分析
 5. 重回帰分析
 6. 共分散構造分析
 7. 倫理審査申請書の確認
 8. リサーチクエスションの考案と生成
 9. 模擬研究計画の作成
 10. 調査票の作成/実験の構想
 11. 研究計画のデザイン
 12. 倫理審査申請書の基本
 13. 倫理審査申請書の加筆
 14. 倫理審査申請書の精査
 15. まとめ

使用テキスト：心理学・社会科学研究のための調査系論文の読み方 改訂版（日本語）単行本？2020/12/8
浦上 昌則（著），脇田 貴文（著）．東京図書．

予習・復習のポイントと
参考文献・資料等：自分の経験や体験と関連づけながら、学習すること。授業後、配付資料について復習するとともに、資料にない関連事項について自主学習を通じ、知見を深めることが望ましい(90分)

【参考文献】

心理学の7つの大罪—真の科学であるために私たちがすべきこと（日本語）単行本？
2019/4/2
クリス・チェインバーズ（著），大塚 紳一郎（翻訳）．みすず書房．

障がいのある
履修者への対応：可能な限り対応するので、まず学務部等に相談すること。

授業時間外の連絡手段：初回授業にて、担当教員のメールアドレスとTeamsのチームコードを伝える。

留意事項：【特記事項】緊急事態宣言/非常事態宣言中は、Teamsを用いた同時双方向型とする。

- ・心理学統計法と心理学研究法を履修済であることが望ましい。
- ・演習的な要素も盛り込んでいるため、授業外での学習時間の確保が求められる。
- ・Google アカウントを各自、設定しておくこと。

科目コード：73031

科目ナンバリング：

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：生活科学特論(Special Topics in Human Life Science)

担当者：國見 充展

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：月曜4限

履修可能学科・専攻：GP GP

関連資格：

AL要素：17. 発問と回答

授業の概要：【特例期間中の授業形態】遠隔授業(同時双方向型)および課題研究型

人の心は直接的に見ることも触れることも不可能である。それゆえに人類は、ヒトの行動や生理反応を観察することによって心を理解しようと努めてきた。

ヒトの心の動きはファンタジーではなく、血が通い肉のある人体の刺激に対する反応である。涙が出るのも、必ず原因となる刺激、神経活動、感情、認知が存在する。

本科目では神経・生理・感覚・知覚・認知等、基礎心理学の最新的话题を取り上げ、心(原因)と行動(結果)の因果関係の理解を深める。

なお本科目の内容を要約し、高校生用に解釈したものが以下の動画にまとめられている。修得前に視聴を推奨する。

ジャsldkjlfl; 亜skjfls; 亜dkfjl; 亜sdfkjjALs; dfkjlさ; dfじやs

キーワード： 心理英語

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 神経・生理・感覚・知覚・認知心理学に関する最新の研究を知る。

評価方法： 課題およびレポート

評価割合：50%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 心(原因, 観察不可)によって行動(結果, 観察可能)が変化する因果関係を理解する。

評価方法： 同上

評価割合：50%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象としない。ただし授業への参加、他者の尊重、報告・連絡・相談の姿勢、他者とのコミュニケーションの程度に著しく問題があると判断された場合は、減点や嚴重注意の対象となる。

評価割合：0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。

評価割合：0%

▼ 公正性

直接的な評価対象としない。ただし授業中の発言やレポート内の記述において人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動があった場合、問題があると判断された場合は、減点や嚴重注意の対象となる。

評価割合：0%

▼ その他

特になし。

評価割合：特になし。

- 授業計画：
1. ガイダンス
 2. 「脳科学」に対する誤解と虚構
 3. ストレスを科学的に考える
 4. 脳機能計測で何がわかって、何がわからないのか？
 5. 記憶は脳のどこにあるのか？
 6. 予知夢があり得ない科学的根拠
 7. 神経・生理心理学の最前線
 8. 論文読解①
 9. 知覚・認知心理学の最前線
 10. 論文読解②
 11. 医学と心理学をつなぐもの
 12. 加齢研究の最前線

- 13.脳機能計測装置見学(@水戸ブレインハートセンターを予定)
- 14.ゲストトーク(オンライン, ゲスト未定)
- 15.振り返り

*受講者の理解と進捗によって、講義内容は変更します。

使用テキスト: 指定しない。資料は随時配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 文学的心理学ではなく、科学的心理学に関する書籍

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部と担当教員に相談してください。

授業時間外の連絡手段: UNIPAによる。

留意事項: 学外への見学ツアーを想定しています。
旅費及び手段の確保を求めます。

特例期間中の授業形態は遠隔授業(同時双方向型)および課題研究型です。週によって異なるのでUNIPA掲示に注意してください。

科目コード: 73032 **科目ナンバリング:** **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 心理学特論A(Special Topics in Psychology A)

担当者: 國見 充展

基本情報

年次: 1 **単位数:** 2 **授業形式:** 講義
曜時: 木曜5限 **履修可能学科・専攻:** GP GP
関連資格: **AL要素:** 17. 発問と回答

授業の概要: 【特例期間中の授業形態】遠隔授業(同時双方向型)および課題研究型

公認心理師試験の出題範囲は広範囲に渡る。
今講座では公認心理師試験の過去問を教材とし、「基礎心理学領域」の知識を獲得する。

キーワード: 公認心理師, 基礎心理学

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 基礎心理学の専門用語を知り、知識体系を修得する。

評価方法: 課題 **評価割合:** 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 公認心理師試験の過去問から、基礎心理学領域の内容を理解、説明できる。

評価方法: 同上 **評価割合:** 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象としない。ただし授業への参加、他者の尊重、報告・連絡・相談の姿勢、他者とのコミュニケーションの程度に著しく問題があると判断された場合は、減点や厳重注意の対象となる。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象としない。ただし授業中の発言やレポート内の記述において人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動があった場合、問題があると判断された場合は、減点や嚴重注意の対象となる。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

- 授業計画：
1. ガイダンス
 2. 心理学の全体像
 3. 心理学における研究
 4. 心理学に関する実験
 5. 知覚及び認知
 6. 学習及び言語
 7. 感情及び人格
 8. 脳・神経の働き
 9. 発達
 10. 障害者(児)の心理学
 11. 心理状態の観察及び結果の分析
 12. 健康・医療に関する心理学
 13. 人体の構造と機能及び疾病
 14. 精神疾患とその治療
 15. 振り返り

*受講者の理解と進捗によって、講義内容は変更します。

使用テキスト： 指定しない。資料は随時配布する。

予習・復習のポイントと
参考文献・資料等： 公認心理師試験の過去問を解いてみること。

障がいのある
履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部と担当教員に相談してください。

授業時間外の連絡手段： UNIPAによる。

留意事項： 本科目は公認心理師試験の過去問をテキストとして使用するが、公認心理師志望以外の学生も歓迎する。

特例期間中の授業形態は遠隔授業(同時双方向型)および課題研究型です。週によって異なるのでUNIPA掲示に注意してください。

科目コード：73033

科目ナンバリング：

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：心理学特論B(Special Topics in Psychology B)

担当者：青木 万里

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：金曜3限

履修可能学科・専攻：GP GP

関連資格：

AL要素：07: 発表

08: 協同学習

10: 資料調査課題

11: 討論

14: 輪読活動

17: 発問と回答

授業の概要： 日本で生まれた心理療法(森田療法、内観療法、臨床動作法)を紹介し、それぞれの理論に基づいた人間理解、治療対象、治療技法などを解説する。

それぞれの心理療法に関連する書籍や論文等を講読することで、支援の具体を学ぶ。

キーワード： 人間理解
森田療法
内観療法
臨床動作法

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業で扱った事項について概ね80%理解したうえで、課題に知識を反映させることができる。

評価方法： 課題
発表 **評価割合：** 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法： 課題
発表 **評価割合：** 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

学修に主体的に取り組むことは当然と考えられるため、直接的な評価対象とはしない。
ただし受講態度が他の学生の学修や授業の円滑な進行に支障をきたすような場合は、減点や注意の対象とする。

評価割合： 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。
ただし授業中の発言や課題内の記述において人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動があった場合や問題があると判断された場合は、減点や注意の対象とする。

評価割合： 0%

▼その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画： 【第01回】オリエンテーション
【第02回】森田療法とは
【第03回】治療理論
【第04回】治療スタイル
【第05回】自助グループ活動
【第06回】事例紹介
【第07回】内観療法
【第08回】治療理論
【第09回】治療スタイル
【第10回】事例紹介
【第11回】臨床動作法とは
【第12回】治療理論
【第13回】治療スタイル
【第14回】事例紹介
【第15回】総括

使用テキスト: 必要な資料は印刷・配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 講義で扱う心理療法の特徴、治療効果や限界、他の心理療法との共通点や相違点などについて学ぶため、自主的な学修をお勧めします。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: 初回の授業でお伝えします。

留意事項: 学部で基本的な心理療法に関する知識を修得したうえで履修することが望ましい。

科目コード: 73034 **科目ナンバリング:** **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 心理実践実習I(Advanced Practical Training in Psychology I)

担当者: 黒澤 泰、渡邊 孝憲

基本情報

年次: 1

単位数: 2

授業形式: 実習

曜時: 火曜4限

履修可能学科・専攻: GP GP

関連資格: 公認心理(院)

AL要素: 01 実地訓練
02 模擬実践
03 実験・実技・体験
04 課題解決
07 発表
08 協同学修
09 実地調査
10 資料調査課題
15 レポート指導
16 振り返り用紙と応答
17 発問と回答

授業の概要: 【茨城版コロナNext Ver. 4 Stage 4以上の場合】遠隔授業(同時双方向型)もしくは課題研究型

(ア) 心理に関する支援を要するもの等に関する以下の知識および技能の習得

- (1) コミュニケーション
- (2) 心理検査
- (3) 心理面接
- (4) 地域支援など

(イ) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ

(ウ) 多職種連携及び地域連携

(エ) 公認心理師としての職業倫理および法的義務への理解

(オ) 公認心理師としての職業倫理および法的義務への理解

【講義】 学部段階での実習を通じて得た公認心理師に必要な知識・技能の基礎的な理解を前提に、上記(ア)～(オ)に沿って心理に関する支援を要するもの等の誓いとニーズを把握する力を養い、公認心理師としての職業倫理および法的義務への理解を求める。

【見学】 学内実習施設であるカウンセリング子育て支援センターの見学実習を行う。見学を通して支援センターの設立理念を学び、実習指導者または実習担当教員から地域相談における心理支援のニーズや現状について説明を受け、公認心理師としての職業倫理および法的義務への理解を深める。見学実習においては事前・事後指導を含む。

キーワード: 公認心理師 クライアント理解 心理的支援 多職種連携 地域連携 職業倫理 法的義務

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 学内外における施設機関での実習を通して、以下の点について理解することができる。

- (イ) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ
- (ウ) 多職種連携及び地域連携
- (エ) 公認心理師としての職業倫理および法的義務への理解

評価方法: ワークシート

評価割合: 30%

レポート
実習記録
実習報告書

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: (ア) 心理に関する支援を要するもの等に関する以下の知識および技能の習得

求められる知識・技能として掲げられているそれぞれの内容に関して、自らの到達度と課題について主体的に考えることができる。その上で、自らが感じていることや考えを適切に表現することができる。

評価方法: ワークシート

評価割合: 30%

レポート
実習記録
実習報告書

▼ 学修に主体的に取り組む態度

求められる知識・技能において挙げた各項目に関して積極的な関心を持ち、自ら問題を見出し、主体的に精査、検討するとともに、仲間や学内外指導者との積極的な協働や議論を通して公認心理師としての在り方や要支援者との関係性の構築を図ることに積極的に臨む態度を重視する。

評価割合: 20%

▼ 実践的ボランティア

対人支援的な仕事にはボランティアの精神・態度が不可欠である。しかし、それは独りよがりなものであってはならない。あくまでも支援を必要とする者が自らの責任で生きることができるように奉仕するものであることを忘れてはならない。そのためには常に自分の働きや動きを広い視野から検討、内省しながら活動することが必要である。その迷いを通して成長しようとする姿勢を重視する。

評価割合: 10%

▼ 公正性

支援を要する人たちに公正で在ろうとすることを意識化することが重要である。様々な歴史や過去、多様な価値観や課題をもつ要支援者に対して先入観や偏見、差別の意識なく接することは非常に困難であることを自覚し、自分の奥深くに潜む偏見、臆見、欺瞞、誤謬、差別意識に対して常に厳しく向き合おうとする態度を重視する。

評価割合: 10%

▼ その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: 学内実習施設において実習を行う。

- ・茨城キリスト教大学カウンセリング子育て支援センター

なお、これらの実習については、基本的に授業配置時間外に実施される。

また、事前事後指導として、以下の授業を行う。

第1回 オリエンテーション

第2回 実習目的について考える(1) 実習目的についての意見交換

- 第3回 実習目的について考える(2)実習経験者の講話から学ぶ
 第4回 実習目的について考える(3)実習計画の立案
 第5回 記録技術を学ぶ(1):原理と理論
 第6回 記録技術を学ぶ(2):事例から学ぶ
 第7回 記録技術を学ぶ(3):映像教材から学ぶ
 第8回 記録技術を学ぶ(4):ロールプレイから学ぶ
 第9回～第12回 保健医療分野,福祉分野,教育分野,司法分や,産業分野の各領域において以下の事項(ア),(イ)に沿って学ぶ。
 (ア)心理に関する支援を要するもの等に関する以下の知識および技能の習得
 (1)コミュニケーション
 (2)心理検査
 (3)心理面接
 (4)地域支援など
 (イ)心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ
 第13回～第14回 学内実習(カウンセリング子育て支援センターの見学実習を行う。事前・事後指導を含む。
 第15回 前期の学びを振り返る。

使用テキスト: 特になし

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: これまで他の科目(とくに履修要件となっている科目)で学んできた内容を復習し、そこで得た知識と本授業における体験との積極的な関連付けを図ること。

障がいのある履修者への対応: 個別の特性とニーズに応じた支援を行う。授業担当者もしくは学務部に相談すること。

授業時間外の連絡手段: 初回授業でお知らせします。

留意事項: ○履修要件等
 本授業は履修要件として、以下の科目の単位を修得していることを求める。

- 「公認心理師の職責」
- 「心理学概論」
- 「臨床心理学概論」
- 「関係行政論」
- 「心理演習」
- 「心理実習」

また、以下の科目の履修を推奨します。
 「心理学的支援法」
 「心理的アセスメント」

- 履修にあたっての留意点
- ・受講該当年度当初における健康診断を必ず受診すること。
 - ・健康状態やそれを証明する書類に不備不足等がある場合には、実習に参加できないことがある。
 - ・コロナ禍の実習が予想されるため、社会情勢や各実習施設等の状況次第で上記30回の授業構成、内容、順序等に適宜変更が生じる可能性があるため、逐次授業やteamsでのアナウンスに注意を払っておくこと。

科目コード: 73035 **科目ナンバリング:** **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 心理実践実習IIA(Advanced Practical Training in Psychology IIA)

担当者: 望月 珠美、青木 万里

基本情報

年次: 1

単位数: 2

授業形式: 実習

曜時: 前期(金曜4限 実習)、後期(金曜4限

履修可能学科・専攻: GP GP

関連資格：公認心理(院)

AL要素：01 実地訓練
02 模擬実践
03 実験・実技・体験
04 課題解決
07 発表
08 協同学修
09 実地調査
10 資料調査課題
15 レポート指導
16 振り返り用紙と応答
17 発問と回答

授業の概要：【授業形態ガイドライン・レベルⅢ、レベルⅡ】遠隔授業(同時双方向型)もしくは課題研究型

学部での学びを基盤としながら、学内実習施設での実習体験を通じて心理臨床の専門家として支援活動に従事する上で必要な知識と技能の涵養を図る。

実習には、事前事後学習、実践(カンファレンスへの参加、個別ケースの担当、スーパーヴィジョン、カウンセリング研究室の運営に関わる活動、地域支援に関する活動など)を含む。これらの学びを通して、bio-psycho-socialの視点からアセスメントと支援、心理専門職としての職責とチームアプローチなどについて理解を深める。

キーワード：コミュニケーション、心理検査、心理面接、地域支援、支援を要する者等の理解とニーズの把握、支援計画、チームアプローチ、多職種連携、地域連携、職業倫理、法的義務

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標：学内実習施設での実習を通して、以下の点について理解することができる。

- ・実習施設の設置理念や沿革、特徴の理解
- ・実習施設における心理に関する支援を要する者とのコミュニケーションの方法
- ・主要な心理検査に関する理論的背景と実施方法の理解
- ・面接技法
- ・心理に関する支援を要する者のニーズに基づいた支援計画の作成
- ・地域支援に関する考え方の理解と実践方法の理解
- ・多職種多機関とのチームアプローチや地域連携の持ち方の理解
- ・公認心理師としての職業倫理と法的義務の体現

評価方法：実習機関における実習担当指導者による 評価割合：40%
評価

実習記録の内容

実習への参加態度

レポート

▼思考力・判断力・表現力

到達目標：求められる知識・技能として掲げられているそれぞれの内容に関して、自らの到達度と課題について主体的に考えることができる。また、要支援者との関わりの適切性について内省するとともに客観的に判断できる。その上で、自らが感じていることを適切に表現することができる。

評価方法：実習機関における実習担当指導者による 評価割合：15%
評価

実習記録の内容

実習への参加態度

▼学修に主体的に取り組む態度

求められる知識・技能において挙げた各項目に関して積極的な関心を持ち、自ら問題を見出し、主体的に精査、検討するとともに、仲間や実習指導者との積極的な協働や議論を通して公認心理師としての在り方や要支援者との関係性の構築を図ることに積極的に臨む態度を重視する。

評価割合：15%

▼実践的ボランティア

対人支援的な仕事にはボランティアの精神・態度が不可欠である。しかし、それは独りよがりなものであってはならない。あくまでも支援を必要とする者が自らの責任で生きることができるように奉仕するものであることを忘れてはならない。そのためには常に自分の働きや動きを広い視野から検討、内省しながら活動することが必要である。その迷いを通して成長しようとする姿勢を重視する。

評価割合：15%

▼公正性

支援を要する人たちに公正で在ろうとすることを意識化することが重要である。様々な歴史や過去、多様な価値観や課題をもつ要支援者に対して先入観や偏見、差別の意識なく接することは非常に困難であることを自覚し、自分の奥深くに潜む偏見、臆見、欺瞞、誤謬、差別意識に対して常に厳しく向き合おうとする態度を重視する。

評価割合：15%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 事前・事後指導、見学、カンファレンスなどを含め、およそ105時間以上の実習を行う。
カンファレンスは、年間15回予定されている。
また学内実習での個別ケース担当については、授業配置時間外となることがある。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回～第14回 事例検討(担当ケースまたはカンファレンスケースの抱えている問題に沿った学習と指導を含む)
- 第15回 14回までの実習の学びをふりかえる
- 第16回～第29回 事例検討(担当ケースまたはカンファレンスケースの抱えている問題に沿った学習と指導を含む)
- 第30回 心理実践実習ⅡAの学びをふりかえる

学内実習施設において行われる実習では、実習指導者等の指導を受けながら以下に示す実践実習を行う。

- ・コミュニケーションに関する実習
- ・心理査定・心理検査に関する実習
- ・心理面接等の心理支援に関する実習
- ・地域支援に関する実習

使用テキスト： 特になし

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：

- ・これまでに学んだ関連知識および技術との積極的な関連づけを図ること
- ・要支援者の理解にあたっては、それぞれの実習分野および設置目的に照らし合わせて関連文献等にあたる自学自習を行うこと
- ・地域相談として来談が予想されるクライアントの疾患や課題の理解に努め、積極的に関わられる準備状態を整えること

障がいのある履修者への対応： 個別の特性とニーズに応じた支援を行う。授業担当者もしくは学務部に相談すること。

授業時間外の連絡手段： 原則としてオフィスアワーに担当者研究室で対応する。各担当者のオフィスアワーの詳細についてはUNIPAで確認する。緊急時は、学務部に連絡しteams等を介して担当教員と緊密な連携体制をとること。

留意事項：

- ・シラバスに示された時間数は目安であり、実際にはこれらの時間数を超えることがある。
- ・受講は心理学専攻の学生に限る。また学部教育の段階において公認心理師国家試験受験資格要件として求められている指定科目全25科目を修得済みの者のみ履修を可とする。
- ・履修にあたっては、心理学専攻履修ガイダンスを必ず受けること。
- ・受講該当年度当初における健康診断を必ず受診すること。
- ・健康状態やそれを証明する書類に不備不足等がある場合には、実習に参加できないことがある。
- ・コロナ禍での実習授業が継続するため、実習内容、スケジュール、実習先等が社会情勢に応じて変化することが予想される。これらを鑑み、常にそうした変化に対応できるような準備を取り、担当教員と協議しながら進めていくこと。

科目コード：73036 **科目ナンバリング：** **主な使用言語：日本語**

授業名(英文)：心理実践実習IIB(Advanced Practical Training in Psychology IIB)

担当者：櫻井 由美子、岩崎 真和

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：実習

曜時：前期(実習)、後期(実習)

履修可能学科・専攻：GP GP

関連資格：公認心理(院)

AL要素：

- 01 実地訓練
- 02 模擬実践
- 03 実験・実技・体験
- 04 課題解決
- 07 発表
- 08 協同学修
- 09 実地調査
- 10 資料調査課題
- 15 レポート指導
- 16 振り返り用紙と応答
- 17 発問と回答

授業の概要： この授業は、学内における講義と学外実習から成る。
講義では、事前および事後指導として、公認心理師法において身につけるべきとされている内容について、学部における学びを土台としつつ、心理実践実習 I および心理実践実習 II Aにおける学びと関連させながら、それらの理解と定着を図る。なお、事後指導には、カンファレンスやスーパービジョンが含まれる。
学外実習では、教育分野、福祉分野、保健医療分野等の学外機関において、心理臨床の専門家として支援活動に従事する上で必要な知識と技能の涵養を図る。内容には、講義・見学、実習先におけるケース担当等による支援体験、カンファレンスを含む。これらの学びを通して、生物心理社会的視点にたった問題の理解と支援、心理専門職としての職責とチームアプローチ、多職種連携及び地域連携による支援実践の実際について理解を深める。

キーワード： コミュニケーション、心理検査、心理面接、地域支援、支援を要する者等の理解とニーズの把握、支援計画、チームアプローチ、多職種連携、地域連携、職業倫理、法的義務

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 学内での講義および学外における施設機関での実習を通して、以下の点について理解することができる。

- ・実習先施設機関の設置理念や沿革、特徴の理解
- ・実習先施設機関における心理に関する支援を要する者とのコミュニケーションの方法

- ・各分野領域において用いられる主要な心理検査に関する理論的背景と実施方法の理解
- ・面接技法
- ・心理に関する支援を要する者のニーズに基づいた支援計画の作成
- ・地域支援に関する考え方の理解と実践方法の理解
- ・多職種多機関とのチームアプローチや地域連携の持ち方の理解
- ・公認心理師としての職業倫理と法的義務の体現

評価方法： 実習機関における実習担当指導者による **評価割合：40%**
評価

実習ノートの内容

授業への参加態度

レポート

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 求められる知識・技能として掲げられているそれぞれの内容に関して、自らの到達度と課題について主体的に考えることができる。また、要支援者との関わりの適切性について内省するとともに客観的に判断できる。その上で、自らが感じていることを適切に表現することができる。

評価方法： 実習機関における実習担当指導者による **評価割合：15%**
評価

実習ノートの内容

授業への参加態度

レポート

▼学修に主体的に取り組む態度

求められる知識・技能において挙げた各項目に関して積極的な関心を持ち、自ら問題を見出し、主体的に精査、検討するとともに、仲間や学内外指導者との積極的な協働や議論を通して公認心理師としての在り方や要支援者との関係性の構築を図ることに積極的に臨む態度を重視する。

評価割合：15%

▼実践的ボランティア

対人支援的な仕事にはボランティアの精神・態度が不可欠である。しかし、それは独りよがりなものであってはならない。あくまでも支援を必要とする者が自らの責任で生きることができるように奉仕するものであることを忘れてはならない。そのためには常に自分の働きや動きを広い視野から検討、内省しながら活動することが必要である。その迷いを通して成長しようとする姿勢を重視する。

評価割合：15%

▼公正性

支援を要する人たちに公正で在ろうとすることを意識化することが重要である。様々な歴史や過去、多様な価値観や課題をもつ要支援者に対して先入観や偏見、差別の意識なく接することは非常に困難であることを自覚し、自分の奥深くに潜む偏見、臆見、欺瞞、誤謬、差別意識に対して常に厳しく向き合おうとする態度を重視する。

評価割合：15%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 学内における講義および学外機関での実習を行う。学内の講義は年間15回、学外機関での実習はケース担当に相当する実習を22.5時間以上、全体で105時間以上の実習を行う。講義では、実習に臨む上での事前および事後学習の一環として次の内容について理解

を深める。なお、講義の順序や時間の配分については、学外実習の実態に合わせて、変更を加えることがある。

- 第1回 保健医療施設機関の設置理念や業務内容の理解
- 第2回 教育施設機関の設置理念や業務内容の理解
- 第3回 福祉施設機関の設置理念や業務内容の理解
- 第4回 司法施設機関の設置理念や業務内容の理解
- 第5回 産業施設機関の設置理念や業務内容の理解
- 第6回 保健医療施設機関における個別的支援展開の理解
- 第7回 教育施設機関における個別的支援展開の理解
- 第8回 福祉施設機関における個別的支援展開の理解
- 第9回 司法施設機関における個別的支援展開の理解
- 第10回 産業施設機関における個別的支援展開の理解
- 第11回 保健医療施設機関における直接支援に関係する知識及び技術の理解
- 第12回 教育施設機関における直接支援に関係する知識及び技術の理解
- 第13回 福祉施設機関における直接支援に関係する知識及び技術の理解
- 第14回 司法施設機関における直接支援に関係する知識及び技術の理解
- 第15回 産業施設機関における直接支援に関係する知識及び技術の理解

また、学外実習内容の概要は以下のとおりである。

- ・コミュニケーションに関する実習
- ・心理査定・心理検査に関する実習
- ・心理面接等の心理支援に関する実習
- ・地域支援に関する実習

なお、実習先は、学生の意向と実習先の都合に合わせて、以下の中から選択する。一部の实習については、実習担当教員が引率指導を行う。

- a) 保健医療分野
 - ・茨城県立こころの医療センター
 - ・医療法人博仁会 志村大宮病院
 - ・医療法人圭愛会 日立梅ヶ丘病院
 - ・茨城県精神保健福祉センター
 - ・独立行政法人国立病院機構 水戸医療センター
- b) 福祉分野
 - ・社会福祉法人 梅の里
 - ・社会福祉法人 同仁会
- c) 教育分野
 - ・茨城キリスト教学園中学校・高等学校
 - ・わせがく高等学校
 - ・水戸市総合教育研究所 水戸市適応指導教室うめの香ひろば
 - ・水戸平成学園高等学校
 - ・翔洋学園高等学校
- d) 司法・犯罪分野
 - ・水戸少年鑑別所・法務少年支援センターみと
- e) 産業・労働分野
 - ・茨城カウンセリングセンター

使用テキスト： 特になし

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：

- ・これまでに学んだ関連知識および技術との積極的な関連づけを図ること
- ・要支援者の理解にあたっては、それぞれの実習分野および設置目的に照らし合わせて関連文献等にあたる自学自習を行うこと。

障がいのある履修者への対応： 個別の特性とニーズに応じた支援を行う。授業担当者もしくは学務部に相談すること。

授業時間外の連絡手段： 原則としてオフィスアワーに担当者研究室で対応します。各担当者のオフィスアワーの詳細についてはUNIPAでご確認ください。緊急時は、学務部にご連絡ください。

留意事項：

- ・シラバスに示された時間数は目安であり、実際にはこれらの時間数を超えることがある。
- ・受講は心理学専攻の学生に限る。また学部教育の段階において公認心理師国家試験受験資格要件として求められている指定科目全25科目を修得済みの者のみ履修を可とする。
- ・履修にあたっては、心理学専攻履修ガイダンスを必ず受けること。
- ・受講該当年度当初における健康診断を必ず受診すること。
- ・健康状態やそれを証明する書類に不備不足等がある場合には、実習に参加できないことがある。
